

長沙呉簡吏民簿の研究（上）

—「嘉禾六（二三七）年廣成郷吏民簿」の復元と分析—

關 尾 史 郎

目 次

はじめに

第一章 吏民簿の構成

第二章 研究史と本稿の課題

第三章 本文簡の復元

第一節 復元的前提—表題簡と帳尻簡—

一 表題簡

二 帳尻簡

第二節 戸人簡

一 戸人簡の様式と集成

二 里と戸人簡

三 書風からみた戸人簡（以上、本輯）

第三節 家族簡（以下、次輯）

第四節 戸計簡

第五節 小結

第四章 分析

おわりに

はじめに

一九九六年に、湖南省長沙市の走馬楼で発見された井窖の一つJ二二から出土したいわゆる長沙呉簡のなかでも、名籍の「吏民人名年紀口食簿」（本稿では、類似の呼称をもつものも含めて「吏民簿」と略記する）は、その採集・発掘枚数の多さもさることながら、後代の戸籍の前身と考えられることから、数多くの研究者の関心を呼び、豊かな成果に恵まれている竹簡群である。国内に限っても、二〇〇四年の『竹簡 壹』の刊行直後に、まず安部聡一郎がその様式による分類を試み「安部二〇〇四（安部二〇〇六）」、小林洋介が日本古代籍帳との比較を通じて吏民簿の特徴を指摘した「小林二〇〇五」。やがて『竹簡 弐』や『竹簡 参』が刊行され、吏民簿の様式が単一ではなく多様だったことがしだいに明らかになると、石原遼平がその理由を作成主体の違いに求めた「石原二〇一〇」。また後述するように、鷺尾祐子は『竹簡 弐』に収録された広成郷の吏民簿が、形態と様式を異にする二種の簡によって構成されていたことを明らかにした「鷺尾二〇一〇A（鷺尾二〇一一）」。私もかつて、安部の成果に導かれながら初步的な検討を行なったことがある「關尾二〇〇六A」「關尾二〇〇六B」。しかし、『竹簡 柒』まで刊行された現在では、石原が言及したよりもさらに多くの様式の吏民簿が作成されていたことが明らかになっており、二篇の拙稿も含めたこれらの成果は、程度の差こそあれ、修正を迫られているというのが現状である。^② いっぽう、中国においては国内をはるかに上回るおびただしい数の成

果が上がつているが、状況は大同小異と言ってよいだろう。

本稿は、この長沙呉簡中の吏民簿について、あらためて考察するために起こされた。それは、この吏民簿が先に述べた戸籍はもとより、贅簿や差科簿など後代における各種簿籍の淵源になったのではないか、という推測「關尾二〇一五A」に端を発している。しかし、これも先述したように、吏民簿は郷や里ごとに、また同じ郷・里のものであっても作成年次ごとに微妙に様式を異にしている。したがって、これを「吏民簿一般」として一括して取り上げて検討を試みても、意義があるとは思えない。そこで本稿では、驚尾も取り上げた、「竹簡式」に収録されている「嘉禾六（二三七）年廣成郷吏民簿」（以下、「本吏民簿」）について、新たな視点から論じる。「竹簡壹」の「竹簡参」の三卷に収録されている竹簡は、J二二から一旦破棄された土砂中よりふたたび採集（回収）されたもので「宋二〇一一」³、井窖内部での位置や相互の関係などがほとんど不明確なのだが、そのなかにあつて本吏民簿を構成していた式一六六一―一七九九の一三九枚は、『竹簡式』所収の「竹簡掲剥位置示意图」（下冊九〇五頁。以下、「示意图」と略記し、示意图に含まれる簡を「示意图簡」と総称）に示されているように、編綴され巻き込まれていた当時の形態を比較的よく残したままで採集された数少ない竹簡群だからである。⁴ いわば、三国・呉の時代の吏民簿研究には欠かすことのできない史料群と評することができらるもので、またそれがゆえに、驚尾の成果のみならず、吏民簿研究全般に貢献するような貴重な成果に恵まれており、このことも今回取り上げることにした一因である。⁵

ただし、本来、本吏民簿を構成していた簡が全て一括してJ二二に投棄されたという確証はないし、土砂中から全ての簡が採集できたのか否かも明らかではない。したがって、本稿における考察もおのずと推測を重ねざるをえなかった。このことは、あらかじめお断りしておかなければなるまい。

第一章 吏民簿の構成

ここではまず、吏民簿の構成について簡単にまとめておきたい。長沙呉簡の吏民簿は以下のような簡（竹簡）によって構成されている。⁶⁾

1 表題簡（郷ないしは里から県廷に宛てて送達する際に冊書の冒頭に置かれた簡）

2 本文簡

① 戸人簡（戸主を意味する戸人だけを記した単記式と、戸人とその家族を記した連記式がある。ただし本吏民簿には「戸人」という称谓は用いられていないので、厳密に言えば妥当性を欠く）

② 家族簡（単記式と連記式があり、戸人簡に後続する）

③ 戸計簡（戸ごとの口数を集計した簡で、男女別の内訳などを併記した簡もある）

3 帳尻簡

① 集計簡（郷ないしは里ごとの戸数・口数を集計した簡）

② 内訳簡（課戸・不課戸ごとの戸数を記した簡や、男女別の口数などを記した簡などの総称）

③ 主者簡（里の責任者である里魁の姓名を記した簡で、里の帳尻簡の最後に置かれたと考えられる簡）⁷⁾

吏民簿はおおよそ以上のような構成になっている。吏民簿以外の各種簿籍では、これに加え、送達する際に附された送り状のような文書や、保管時に附されたと思われる付け札（籤牌）などの存在が確認されているが、現在までのところ、吏民簿に関するかぎり、文書や付け札については報告がない。あるいはこのことには重要な意味が潜んでいるとも考えられるが、ここでは指摘するにとどめたい。なお表題簡の文言には「謹列」の二字が含まれているが、これは、長沙呉簡の簿籍の特徴である。長沙呉簡は、孫呉政權時代、長沙郡の首県だっ

た臨湘県（当時は臨湘侯国）内で作成された簡牘群を中心に構成されているので「王他一九九九」、吏民簿の場合、郷や里で作成されたものが表題簡を附されて県廷に送達され、戸曹など関係の部署で管理・利用された後、井害に廃棄されたものということになる。また帳尻簡の集計簡は「集凡」で戸数や口数が導かれるようだが、戸計簡の集計簡は「凡」ないしは「右」で導かれるのが一般的である。後述するように、本吏民簿の場合は、戸ごとや里ごとの集計が「右」で導かれるのに対し、郷全体の集計は「集凡」で導かれている。以上をふまえた上で、本吏民簿について検討していきたい。

第二章 研究史と本稿の課題

本章では、本吏民簿に関する主要な先行研究の成果を紹介し、本稿で取り上げるべき問題について説明しておきたい。

最初に本吏民簿に対して本格的な分析を試みたのは、侯旭東である「侯二〇〇九（侯二〇一五）」。冊書の復原こそ簡牘研究に不可欠かつ重要な作業とする侯は、【図一】として掲げた示意图に示された一三九枚（無文字簡を含めると、二〇八枚）に上る簡の復原作業に取り組み、①これが、広成郷から臨湘侯国に送達され、一定期間保存された後に廃棄された広成郷吏民簿の広成里の部分であること（一部に広成里以外の里の簡を含む）、ただし広成里部分を構成していた全ての簡が示意图内に収まっていたわけではなく、示意图の前後にも同類の簡が散在していること、②冊書を構成する簡の枚数には限度があるので、広成里部分についても複数の冊書に分けられていた可能性があること、しかし冊書の構成や規模（枚数）には、必要に応じて手が加えられたこと、③嘉禾五（二三六）年の里中丘の吏民田家荊（以下、「田家荊」）に、示意图簡に戸人として名を連ねている吏

民が見いだせ、かつ広成郷の倉庫所受蒞（「倉庫蒞」）¹⁰に里中丘を居住地とする民戸が見えており、里中丘が広成郷を本貫とする吏民の居住地だったこと、そして同年の弦丘の田家蒞に見いだせる吏は、本吏民簿では里中丘居住の戸よりも後方に配列されていたらしいことなどから、本吏民簿は、居住地である丘を単位にしてまとめられ、同じ丘内では、吏よりも民が前方に配列されたこと、④父が在世していても、若年の吏や卒が戸人になっていること、⑤総じて登載者に老少や疾病・障碍者が多い反面、成年男子が少ないことなど、じつに多くの事実を解明・指摘している。また今後の課題としては、広成郷や広成里の吏民簿が本吏民簿以外にも採集・発掘されている事実を指摘し、それらとの比較研究の必要性を説いている。¹²

侯に次いで本吏民簿に着目したのは、鷲尾祐子である「鷲尾二〇一〇A（鷲尾二〇一一）」。鷲尾の関心は、家族構成の諸特徴にあるようだが、『竹簡貳』の図版を手がかりにしながら、一三九枚の示意図簡には長短二種の簡があることを指摘する。長い簡（以下、「長簡」）が二四・五センチ程度、短い簡（「基準簡」）が二三・六センチ程度で、一センチ前後の差が認められるという。¹⁴ 示意図に附された説明によれば、一三九枚のなかでも、貳一七二四〇一七九九の七六枚は編綴されていた当時の原状が保存されているとされるが、¹⁵ そのなかにも基準簡に混じって長簡がわずかながら含まれていることにも注意を向けている。また両種の簡には、形態だけではなく様式にも違いがあることを看破する。すなわち、長簡の戸人簡が戸人だけを記載している単記式であるのに対し、基準簡の戸人簡は、戸人とその家族の構成員の二名を記載する連記式なのである。この他、長簡では成年女性に口算に関するデータ（筭一）が記されており、基準簡でも、成年であるはずの五十歳代の女性にはこのデータの記載がないこともあわせて確認している。侯が、示意図の前後にも本吏民簿の広成里部分を構成していた簡が散在しているとした点についても、示意図（貳一六六一）以前では貳一五三六が初出、示意図（貳一七九九）以後では貳二五二九（広成郷の帳尻簡の集計簡）まで同じ様式の簡が断続的に続くことを

指摘している。¹⁶⁾

この鷺尾の指摘を受けた侯は、この史料群に再度取り組み「侯二〇一三（侯二〇一五）」、鷺尾が長簡と短簡（基準簡）に区分した一三九枚の示意図簡について、逐一図版による計測値を示して補強し、さらに長簡では続柄について、弟が「男弟」と表記されていることを明らかにする（妹については、いずれでも「女弟」）。その上で、示意図簡の前後にも視野を拡大し、第十六盆（式一五三六―二八四〇）全体を対象として、田家蒨や倉庫蒨に見えている弦丘の居住民と姓名が一致する簡を摘出する。該当するのは二十八例（身分が一致しない四例を含む）¹⁸⁾で、このうち長簡の戸人簡二十七枚を本吏民簿の弦里部分と見なし、前稿と同じように、この部分の復原作業を試み、三十戸分計一二六枚（このうち、示意図簡は二十一枚）を列挙する。これを侯は「口食簿Ⅱ」と呼び、前稿で復原した広成里部分の「口食簿Ⅰ」と区別しつつも、弦里も広成里とともに広成郷管下の里なので、本吏民簿を構成していたことを確認するのである。さらにこれをふまえ、①阿里の簡には、形態、様式、および本文簡の書風などに違いが認められるので、本吏民簿は里ごとに作成されたと考えられること、②その作成者は、主者簡に記されている里の里魁であり（広成里は蔡喬、弦里は郭攜、弦里の表題簡も第十六盆に含まれていること）、¹⁹⁾③『竹簡肆』に収録されている「嘉禾四（二三五）年廣成里吏民簿」（以下、「四年簿」）にも名前が見える三人（黄張Ⅱ式一七二四、朱養Ⅱ式一七七三、周車Ⅱ式一六八六）は、二年後の本吏民簿では年齢が一歳しか加算されていないので、本吏民簿は、前年の嘉禾五（二三六）年八月に作成されたもので、その年の年齢が記されていたこと、また示意図に示された無文字簡が全二〇八枚中六十九枚と、全体の三分の一近くにも達するその多さを重視し、④戸人簡（三十枚）²⁰⁾や戸計簡（三十三枚）などに比べて家族簡が少なく（六十三枚）、かつ内容的にも成年男子の登載が乏しいこともあわせ考えると、本吏民簿の記載には取捨選択が行なわれており、吏や卒の戸、職役を負担している民戸、疾病・障碍者や老少・女性が戸人の戸、および物故

者が出た戸などに限って戸人簡や家族簡が作成され、それ以外の場合は戸計簡だけが作成された可能性があることなどを指摘する。最後の点については、作成者である里魁の負担を軽減するためであり、県廷でも黙認された結果、本来は戸人簡や家族簡になるはずだった簡が最後まで無文字簡として残る結果になった、というのが侯の推測である。侯はさらに本吏民簿の機能についても検討を試み、本吏民簿は、県廷からの要求にこたえるべく、広成郷が管下の里に作成・提出させた簿籍をまとめて県廷に送達したものであるという理解を基礎にして、⑤広成里の表題簡(式一七九七)に見えている「任」字は担当の意であること、そして戸人という称谓を用いずに、吏や卒といった身分を重視していることなどによれば、本吏民簿は、吏や卒をはじめ各種の職役を賦課された民戸、ならびに疾病・障碍者や老少・女性が戸人の戸(不任役戸)を抽出することに主眼が置かれており、翌年に向けて職役を負担可能な戸(定応役民戸)を確保するために作成されたものだったと断ずる。そして⑥その作成は、郷や里が県廷からの要求に応えられるように、里魁が、手元で管理していた戸籍のような詳細な基本台帳から必要なデータだけを抄録するかたちで作成したものであって、本吏民簿自体を戸籍と解するのは正しくなく、しいて言えば、唐代の差科簿に類する機能を有しており、その淵源に当たること、また⑦本吏民簿と同類の名籍は、『竹簡壹』の八千番台にも嘉禾四年簿の構成簡が見られるので(耆八六五五が広成里の表題簡)、定期的に作成されていたことが明らかなこと、⑧その反面、正式な戸籍(黄簿)は、大型図録本『長沙走馬楼三国呉簡』の既刊部分には見当たらないことなどを主張している。

この侯の新稿は、方法と結論の双方において、吏民簿研究の水準を大きく引き上げた意欲作と評することができる。そればかりか、『凌二〇一一(凌二〇一五)』をはじめとする凌文超による一連の簿籍研究などもあわせて考えると、中国の長沙呉簡研究が、新たな段階に進入しつつあることを感得させられる。史料それ自体に対する古文書学的な分析(簡牘遺存信息)と同時に出土状況に対する考古学的な分析(考古学整理信息)の必

要性を強調する凌の主張「凌二〇一三（凌二〇一五）」も、至極当然のこととは言え、それを実践することの困難さを思えば、侯の成果には素直に脱帽せざるをえない。もつともこのように書けば、もはや本吏民簿について新たに稿を起こす必要性も可能性もないかのごとく思われるであろう。にもかかわらず、あえて本稿を起こすことにしたのは、史料それ自体に対する古文書学的な分析も、出土状況に対する考古学的な分析もお徹底を欠いていると判断したからにほかならない。本稿の課題とも関連させて、この点について私見を述べておきたい。

侯が課題としたのは、なによりも冊書の復元であった。その場合、侯自身が、広成里部分を「口食簿Ⅰ」、弦里部分を「口食簿Ⅱ」と呼んでいるように、里ごとに編綴され冊書状に仕立て上げられていたというのが基本的な理解だった。おそらくこの侯の理解は正しいであろう。また何よりも、冊書の復元という困難な作業に取り組んだことについては、一定の評価が与えられてしかるべきだろう。しかし、簿籍の復元という作業は一般的に言って、文書の復元以上に手がかりを欠いており、名籍の場合も各戸の構成を復元できたとしても、各戸間の前後関係については、ほとんど判断材料がない。本吏民簿も例外ではなく、示意图簡が比較的良く原状をとどめているにせよ、多くの推論を重ねる結果になってしまった感は否めない。このような限界を克服するためにも、古文書学的な分析や考古学的な分析を徹底させる必要があったのではないだろうか。

後者の点について言えば、出土（採集）状況を考慮すれば、示意图簡にとどまらず、対象を第十六盆全体に拡げて、広成里簡と弦里簡を博搜する必要があると考える。侯自身、示意图の前後にも本吏民簿の構成簡と申しき簡が散在することを認めているのだから「侯二〇〇九（侯二〇一五）」、なおさらである。実際に、広成里を本貫とする吏民や里中丘に居住する吏民を戸人としている簡は、けっして多くはないが、示意图の外側に

も確認できる。侯自身が、広成里の里魁とした蔡喬の戸人簡（式一九〇三）も、示意图の後方にあった。それにとどまらず、形態や様式などから、広成里簡と弦里簡とを弁別できることが明らかになったのだから、その基準に依拠して、第十六盆全体を対象として弁別の作業を試みる必要があったのではないだろうか。帳尻簡の集計簡から、広成郷管下には七つの里があつたことがわかるので、その中から二つの里の簡だけを選別する作業は確かに容易ではないだろう。畢竟、広成里と弦里以外の里の簡と両里の簡とを弁別する基準を帰納的に導き出すことにならざるをえない。しかし、これは一見すると迂遠なようでありながら、本吏民簿の全体像に迫るためには不可避なプロセスでもある。そしてまた、広成里簡と弦里簡の間にも大きな差異が認められた以上、両里以外の里の簡との間にも明瞭な差異が認められるはずである。²⁴すなわち、第十六盆全体を対象として、本吏民簿を構成していたと考えられる簡を抽出し、それに対して形態と様式を中心とした古文書学的な分析を徹底させること、これこそ、喫緊の課題であり、本稿の目ざすところでもある。またそのようなプロセスを経ることにより、はじめて本吏民簿の機能についても説得力ある解答を用意できるのではないだろうか。

本稿ではかかる立場から、次章ではまず、第十六盆の採集簡全体を対象として、本吏民簿を構成していたと考えられる簡を戸人簡を中心として抽出し、その上でこれを里ごとに弁別し、次々章では、記載事項を中心として本吏民簿の様式ならびに内容に対する検討をふまえ、その機能に関しても私見を述べたいと思う。²⁵

なお本稿では、「形態」を、書写材料である竹簡の大きさや形状、さらには書写された文字の書体・書風などを包含する意味で、また「様式」を、記載事項・記載順序・表記方法・記載位置などを包含する意味でそれぞれ用いる。吏民簿の「性格」は官の簿籍だが、「機能」とは、本吏民簿の作成から廃棄に至る全プロセスとそこにおいて果たした役割（それは作成の意図や目的とも関わるが）を意味している。

第三章 本文簡の復元

本章では、本吏民簿の構成簡について、戸人簡をはじめとする本文簡を第十六盆全体を対象として抽出し、それを里ごとに弁別する。そのためには、形態と様式の面において、里ごとに差違があり、それが図版などから容易に識別できることが前提となるが、弁別作業と同時にこの差違についても説明を行ないたい。本章では、まずその前提作業として、本吏民簿の表題簡や帳尻簡を抽出し、里の数をはじめ、郷や里の戸数・口数について確認する。その上で本吏民簿の構成簡のうち、戸人簡を集成し、これを里ごとに弁別する。最後に、戸人簡以外の本文簡、すなわち家族簡と戸計簡の形態や様式についても検討する。

第一節 復元的前提―表題簡と帳尻簡―

本節では、本吏民簿の表題簡と帳尻簡と思われる簡を、第十六盆全体、すなわち式一五三六―二八四〇の全一三〇五枚のなかから抽出する。ただし、第十六盆には、本吏民簿の戸人簡とは明らかに異なる様式の戸人簡も含まれているので、表題簡や帳尻簡についても、その全てが本吏民簿の構成簡だったと断言するには慎重さが求められる。なお、以下の行論では、欠損している簡を除き、『竹簡 弐』の図版に依拠した計測値を併記する（単位はセンチ）。整理小組のメンバーである王素氏からの教示によると、図版は実物大であるという。⁽²⁸⁾

一 表題簡

まず表題簡について検討する。第十六盆中の表題簡は左の四枚である。

- | | | |
|------------------------|-------------|--------------|
| 1 廣成里謹列領任吏民一人名年紀口食爲簿 | — | (式一七九七) 二三・九 |
| 2 廣成鄉謹列嘉禾六年吏一民人名年紀口食爲簿 | — | (式一七九八) 二三・八 |
| 3 ……吏…… | 一客家數年紀口食人名簿 | (式一五四六) 二四・〇 |
| 4 □ 鄉謹…… | — | (式二二六四) 二三・九 |

説明するまでもなく、2が広成郷の表題簡、1が広成里の表題簡で、示意图簡である。本吏民簿が嘉禾六年の広成郷のものであることも、2が根拠になっている。この二枚は続けて巻き込まれた最も内側にあり、簡冊の冒頭部分に位置していたと考えられる。広成郷の吏民簿の冒頭に、郷と同じ名称をもつ広成里の部分が配されていたと考えるのは、ごく自然なことである。

それに対して3と4は、示意图外にあり、釈読できない箇所が小さくないのだが、このうち3については、侯旭東が、「□郭攜謹列□□吏□□客家數年紀口食人名簿」と試釈しており「侯二〇一三（侯二〇一五）」、これを受けてあらためて実見した結果を掲げると、次のようになる。

- 3' □□郭攜謹列六年吏民一□客家數年紀口食人名簿 — (式一五四六)

すなわち、郭攜が里魁を勤めていた弦里の表題簡だったのである。後述するように、弦里の戸人簡は、第十六盆中でも示意图簡よりも番号では前、すなわち式一五三六―一六六〇の間に多くが散在しているので、ここに表題簡が含まれていることは自然であろう。ただ同じ広成郷管下にありながら、広成里(2)と弦里(3')とは、その表現に微妙な違いがあることにも留意しておきたい。また残る4だが、広成郷以外の某郷の表題簡

7・右弦里領吏民五十一戸口食三百卅人

—

(式一九四七) 二三・六

8・☐里領吏民五十一戸口食……

—

(式二三二〇) 二三・五

9 ☐凡廣成郷領吏民☐☐五十戸口食二千三百一十一人

(式二五二九) 二三・五

5と6が示意図簡である。説明するまでもなく6は広成里の集計簡だが、5は欠損部分が大きく、厳密に言う
と、帳尻簡と断言することができないものだが、その可能性が高いものである。7以下の番号は示意図簡の後
方になるが、うち7が弦里の集計簡、9が広成郷全体の集計簡である。³¹⁾5や8も含めていずれも広成郷管下の
里の集計簡だとすると、広成郷管下の里は戸数が一律五十戸だったということになる。また9から、広成郷全
体では戸数が三五〇戸となり、里は七つあったと考えられる。5〜7から、各里の口数は、三〇〇前後から四
〇〇前後だったと推定されるからである。なお集計を導く文字であるが、後述するように、本吏民簿の場合、
里の集計簡では、戸計簡と同じく「右」が用いられているが、郷全体の集計は9にあるように、「集凡」の二字
であった。³²⁾

なお本文簡は長簡だった弦里の集計簡7が基準簡の長さしかない反面、本文簡が基準簡だった広成里の集計
簡6は、本文簡よりむしろ長いが長いようで、疑問が残る。

(2) 主者簡

つぎは里の責任者である里魁の姓名を記した主者簡である。³³⁾

10	—	一魁	蔡 喬	<input type="checkbox"/>	(式一七〇〇) 二三・七
11	—	一魁	區 桐	主	(式一八八二) 二四・〇
12	—	一魁	郭 穠	<input checked="" type="checkbox"/>	(式二〇六二)

13

一

一 魁 梅 □ 主

(式二三四〇) 二三・二

主者簡も全部で四枚ある。このうち、10は唯一の示意図簡で、広成里の主者簡と考えられる。³⁴⁾ また12については、侯が名を「蘓」と釈読し、弦丘に居住する郭蘓³⁵⁾の戸人簡(式一五九三)と同一人とする「侯二〇一三(侯二〇一五)」。弦丘が弦里を本貫とする吏民の居住地だとすれば、これも集計簡の7に対応することになる。残る11と13については後述する。

(3) 内訳簡

① 不課戸数

内訳簡のうち、まず職役賦課の対象外とされた不課戸数を記載した簡を列挙する。

14

一 其五戸 嬴老頓貧窮一女戸

(式一七〇五) 二三・七

15

一 □ 六戸 嬴老頓 一貧窮女戸

(式一八六二) 二四・〇

16

一 其七戸 嬴老頓貧窮一女戸

(式二〇三六)

17

一 其七戸 嬴老頓貧窮一女戸

(式二三〇七) 二三・九

やはり集計簡や主者簡と同じく四枚が確認できる。示意図簡は14だけで、番号が10と近接しているので、広成里簡と判断できよう。それ以外は示意図の後方のものばかりだが、一里五〇戸だとすると、その一割強が不課戸だったということになる。また記載位置は微妙に異なるものの、文言は共通である。

② 死没者数

内訳簡のなかには、死没者数を示した簡もある。

18	一 其 <input type="checkbox"/> 人前後被病物故一	(式一六七二) 二三・六
19	一 其一人前後被病物一故	(式一九九五) 二三・五
20	<input type="checkbox"/> 一 其五人前後被病物一故 <input type="checkbox"/>	(式二一六八)
21	一 其卅五人前後被病及他坐一物故	(式二三一九) 二三・七
22	一 其四人前後被病 <input type="checkbox"/> 故一	(式二三四四) 二四・〇
23	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 被病物故	(式二四二三)

残片もあるが、この種の内訳簡だけは六枚を数える。このうち、21は三十五人というその突出した人数などから、³⁶⁾ 広成郷全体の内訳簡と考えるべきであろう。文言も他の五枚とは若干異なっている。またこれを除く五枚がいずれも広成郷管下の里の簡だとすると、第十六盆には少なくとも五つの里の部分が含まれていたことになる。示意図簡は18だけだが、広成里の集計簡である6と番号が連続しており、これも広成里簡と判断できる。

以上、ここには二種の内訳簡を掲げたが、いずれも中段の冒頭から書き出されており、内訳となる戸数や人数が「其」字で導かれている。「其」字が内訳を導くことは五世紀後半のトゥルフアン文書でも行なわれており〔關尾二〇〇二〕、定型化していたと言いうことができる。

以上、本項では、里の帳尻簡を構成する集計簡、主者簡、および内訳簡などが、いずれも四枚から五枚ほど第十六盆に見いだせることを確認することができた。つまり四里分ないしは五里分ということである。とすれば、七つの里を管下に置いていたと思われる広成郷吏民簿のうち、広成里と弦里を含めて四つから五つの里の部分が第十六盆に散在していた可能性が指摘できる。このことをふまえ、次節では、いよいよ本吏民簿の戸人簡について検討を加えることにする。

第二節 戸人簡

本節では、本吏民簿の戸人簡を第十六盆全体を対象として博搜し、形態や様式により、里ごとに弁別する。博搜・弁別の前提として、あらためて本吏民簿の戸人簡に固有な様式、とくに基本的な記載事項と記載順序について、確認しておきたい。

一 戸人簡の様式と集成

(1) 様式

本吏民簿の戸人簡に固有な様式については、前章で紹介した先行研究によって明らかにされているが、それによると、以下のように整理できる。

・「民男子」（戸人が女性の場合は「民大女」）＋姓名＋年齢（以下、「子」が誤脱したと思われる「民男」を含む）。

・某吏（卒）＋姓名＋年齢。

・「子弟」＋姓名＋年齢。

このうち、二番目の某吏とは、州吏、郡吏、県吏、および軍吏のいずれかであり、某卒も同じように、州卒、郡卒、県卒、および軍卒のいずれかとなる。また年齢の表記方法は、「年××」（×は数字）であり、十歳未満に限って「年×歳」と記される。

本稿では、第十六盆に含まれるこのような様式を有する戸人簡は、いずれも本吏民簿を構成していたという

30 郡卒潘囊年廿三

—

—

（式一七〇八）二四・三

31 一囊妻大女初年廿六

一囊父公乘尋年六十一苦虐？病

（式一六九六）二四・四

32 一尋妻大女司年卅四踵右足一囊男弟公乘祀年十一

（式一六九四）二四・五

33 一祀女弟□年二歳

一尋好（姪？）子女陵年廿六

（式一六五五）二四・三

34 一右囊家口食八一人

—

（式一六九七）二四・三

30が戸人簡、31～33が家族簡、34が戸計簡である。二四センチ余という長さと、戸人だけを記す戸人簡の様式から、弦里簡と判断される。戸計簡に記された人数からすると、家族簡がもう一枚あったはずだが、採集されていない。戸人の妻（二十六歳）、母（四十四歳）、および従姉妹（二十六歳）の三人の女性にはいずれも、「筭」のデータが不記載となっている。また戸計簡の書き出しの位置が広成里簡よりも二～三字分下がっていることにも留意しておきたい。

(2) 集成

示意图に含まれる本吏民簿の戸人簡は、三十一枚に上るが、それでは、第十六盆（式一五三六～二八四〇）全体ではどのくらいの枚数になるのだろうか。本文簡の家族簡や戸計簡を全て抽出するのは至難だが、戸人簡だけであれば、比較的容易である。いま、第十六盆にとどまらず、『竹簡 壹』～『竹簡 肆』、および『竹簡 柒』から抽出すると、『表Ⅰ』のようになる。

すなわち、第十六盆には、示意图の三十一枚以外にも一五一枚の戸人簡が含まれており、第十六盆全体では一八二枚（No. 9～190）にも上る。さらに第十六盆にとどまらず、『竹簡 壹』に収録されている第十三盆（壹七二七六～八八九〇）と第十四盆（壹八八九一～一〇五四五）にも計八枚（No. 1～8）、第十六盆と同じく『竹簡

式』に収録されている第二十盆（式五三〇五～六五三四）と第二十一盆（式六五三五～八一九九）にも三枚（No.191～193）ある。また出土簡を収録している『竹簡肆』にも一枚（No.194）ある。第十六盆以外の十二枚も、第十六盆の一八二枚と同じく本吏民簿を構成していたと断定することは控えたいが、これらも合わせると、総計一九四枚にも達するのである。里が一律に五十戸で構成されていたとすると、この枚数はほぼ四里分に相当する。先に見たように、示意図中の二枚を含め、第十六盆には帳尻簡の集計簡が四枚確認されるので、戸人簡の総計数から導き出される里数に対応する。では、戸人簡はその四里分だけだったのであるか。また四里分だったとして、その里の違いをどのように弁別すればよいのであろうか。

二 里と戸人簡

侯旭東は当初、本吏民簿以外の吏民簿すなわち「嘉禾四（二三五）年廣成里吏民簿」（「四年簿」）をはじめ、田家朔（居住する丘のみ記載）や倉庫朔（本貫の郷と居住する丘を併記）などに、示意図簡の戸人と同姓同名の吏民の存在を探り、里中丘や彈漚丘の居住者のなかに、四年簿にも名が見えている吏民がいることから、里中丘や彈漚丘の居住者は広成里民だったとし、示意図簡を全て広成里簡と解釈した「侯二〇〇九（侯二〇一五）」形態と様式から、示意図簡が二種に大別できるという鷺尾の批判を受けた際も、示意図簡の戸人と同姓同名の吏民が弦丘の田家朔や倉庫朔に見いだせることを根拠として、示意図をはじめ第十六盆に弦里簡が含まれているとしたわけである。弦丘の名称が弦里に由来することは疑いのないところであろうから、このような論証プロセスは首肯されよう。本稿でも、このような侯の視点と方法を踏襲し、四年簿や田家朔³⁶⁾を博搜し、広成里と弦里以外の里の戸人簡を抽出し、あわせて当該の里ごとに戸人簡の形態や様式上の特徴を導き出した

い。³⁹ まずはあらためて広成里から。

(1) 広成里簡

侯が示意図から最初に広成里の戸人簡としたのは三十枚であるが、鷺尾の批判を受けて、そのうち四枚については弦里簡と修正したので、最終的には二十六枚になる。まずこれらの示意図簡を掲げ、そのあとで、第十六盆全体を対象として、同じ形態と様式を有する戸人簡を弁別する。

① 示意図中の戸人簡。「侯二〇〇九（侯二〇一五）」が田家蒨から里中丘居住者で、広成里民としたもの。⁴¹ このうちの39が四年簿にも戸人として見えており、広成里民だったことが根拠である（以下、番号の*は重複を示す）。⁴²

35	□ ⁴³ 縣吏唐睭年六十	一	一睭妻大女妾年六十踵足	(式一七〇三)
36	軍吏朱謙年卅五	一	一謙妻大女壹年廿六筭一	(式一七二三) 二三・五
37	縣吏鄧播年廿七	一	一播妻大女金年廿一筭	(式一七二九) 二三・七
38	民男子范宜年卅二刑右一足		一宜妻大女姑年卅二筭一	(式一七六四) 二三・五
27	* 民男子朱賢年六十一	一	一賢妻大女□年五十九	(式一七六八) 二三・五
39	民男子朱萇年六十七□一□亭復人		一萇妻大女礼年卅三筭一	(式一七七三) 二三・五
40	民男子闕文年六十四	一	一文妻大女婢年五十二	(式一七七五) 二三・六 ⁴³

35は、上端が欠損しているの、やや短い、それ以外は、二三・五、二三・七センチである。

② 示意図中の戸人簡。①とともに、侯が当初より広成里簡としているもの。里中丘の吏民蒨には同姓同名の吏民を確認できないが、①と同じく基準簡・連記式。このうち、43と47はともに四年簿にも戸人として見え

ている（以下、田家前にも見えている場合は、丘名不詳のものを除き、丘名を併記する）。

- 41 民男子蔡收？年八十一盲一右目
 一□妻大女^四……（式一六七三）二三・七
- 42 州吏惠^四年十九 一
 一^四父公乘司年六十七張病（式一六七五）二三・六
- 43 ^四民男子周車年五十三^四一心病給困父
 一車妻大女屈年五十（式一六八六）二三・七
- 23 *^四民男子李^四年卅一 一
 一兒妻大女智？卅八筭（式一七〇七）二三・六
- 44 民男子劉宜年卅六□一盲右目
 一宜妻大女汝年卅八^四（式一七一〇、梨下丘）二三・六
- 45 州吏呂次年卅七 一
 一次妻大女鹿年卅三（式一七一四）二三・六
- 46 郡吏黃薦年廿五 一
 一薦父公乘署年五十七（式一七二〇）二三・七
- 47 民男子黃張年五十三踵一兩足
 一盲張妻大女庶？年卅三筭一（式一七二四、彈漚丘）二三・六
- 48 民大女唐扇年七十四 一
 一扇子公乘鵠？年十五踵左足（式一七四一）二三・六
- 49 民男子□漢年七十三踵一兩足
 一漢妻大女宜年六十三（式一七五五）二三・六
- 50 民男子謝文年七十四 一
 一文妻大女邙？年六十（式一七六二、里中丘）二三・五
- 51 民男子屈騎年六十二刑^四□^四
 一騎妻大女客年五十三（式一七七二）二三・五
- 52 民男子唐金年八十二 一
 一金妻貞五十二（式一七七二、函丘）二三・五
- 53 民男子楊明年八十六一給驛兵
 一明妻大女敬年六十二（式一七七八）二三・六
- 54 民男子蔡若年卅七給驛一兵
 一若妻大女賜年卅筭一（式一七八一、彈漚丘）二三・五
- 55 民男子周□年廿三□一□
 一□妻大女□年廿二筭一（式一七八二）二三・七
- 56 民男子周托年卅二盲□一□
 一托妻大女汝年廿七雀卻□□□（式一七八五）二三・七

57 民男子張卒年六十一

— 卒妻大女誅年卅三第一

（式一七八六、逢唐丘）二三・六

58 民男子楊禿年六十

— 禿妻大女姑年卅九第一

（式一七九五）二三・七

梨下丘（44）、函丘（52）、および逢唐丘（57）は一例だけなので、同姓同名の別人である可能性がある。⁴⁴また50については、『吏民田家莧』が旱中丘と釈読するが、「旱」は「里」とも釈読できることが既に指摘されており「侯二〇〇九（侯二〇一五）」、実見の結果、里中丘と釈読できることが判明した。なお長さは①の簡と同じく、二三・五〇二三・七センチである。

基準簡・連記式を基本とし、第十六盆全体を対象として、広成里簡と考えられる簡を左に列挙してみよう。

③ 示意図以外の戸人簡で、基準簡・連記式の基準にあてはまるもの。長さは①と②から、二三・五〇二三・七センチの範囲に限った。このうち59と69は、四年簿にも戸人として見えているので、間違いなく広成里民である。

59 □男周從年廿三

— □母妾年七十二踵足

（式一五四〇）二三・五

60 □□□□頭？年廿五

— 頭？父公乘張年八十

（式一五四二）二三・五

61 □吏五桓？年卅五

— 桓妻大女汝年廿二第一

（式一五七八）二三・六

62 ……………年廿二

— □妻大女牛年廿第一

（式一六一〇）二三・六

63 □吏□□年卅八

— □妻大女文卅五第一

（式一六一二）二三・六

64 郡吏黃士年十三

— 士兄公乘追年廿三刑□□

（式一六二三、彈渡丘）二三・六

65 民男子胡惠？年七十龍兩

— □姪子仕伍得年五歲

（式一六二七）二三・五

66 州吏尹澤年冊^五 一 一澤妻大女^四年冊^一 〇

(式一六三三、里中丘) 二三・五

67 民男子黄鬻年五十〇一〇 一 一韓妻大女汝年六十二 (式一六五九) 二三・五

68 民男子黄鼠年冊四盲右一目 一 一鼠妻大女汝年冊一第 一

(式一八〇一、彈洩丘) 二三・六

69 民男子周明?年卅〇 一 一明?妻大女^〇年卅四第 一

(式一八一二) 二三・五

70 子弟黄澤年冊 一 一澤妻大女濯年卅八第 一 (式一八一五、弦丘) 二三・六

71 州卒蔡區年卅二 一 一區妻大女^〇年廿七第 一 (式一八二二) 二三・六

72 民男子區遠年七十三 一 一遠妻大女布年七十 (式一八五二) 二三・七

73 民男子蔡喬年六十二一給驛兵 一 一橋妻大女典年冊八第^一

(式一九〇三、彈洩丘) 二三・四

③に該当するのは、右の十五枚である。四年簿から広成里の戸人であることが確認できる59・69以外にも、彈洩丘居住者(64・68・73)⁽⁴⁵⁾や里中丘居住者(66)⁽⁴⁶⁾が含まれている。ただし、釈読不能部分が大きい62については、判断がむづかしい。また70は弦丘なので、同姓同名の別人か、あるいは広成里民が弦丘に居住していたケースであろう。なお最後の73は若干短い、広成里の里魁である蔡喬その人なので、ここに掲げた。実見の結果、この簡は下端右辺が欠損しているが、左辺は完存であることがわかった。蔡喬は里魁である上に、「驛兵」なる職役を負っており、年齢も考えると、過重な負担だったと言うべきか。

④ 広成里簡のまとめ

広成里の戸人簡は推定を含めて、計四十一枚を数える。これら以外にも、欠損していて長さがわからないも

があるので、広成里に関しては、全五十戸のほぼ全ての戸人簡が残っていた（つまりは、作成された）と考
えることができる。また広成里簡では、障害・疾病や職役が戸人に併記される場合は、障害・疾病↓職役（「給」
字で導かれる）の順序で、年齢の下に空格を設けずに書写されたことが、43からわかる。なお鷺尾が指摘した、
五十歳代の女性には「筭（二）」の記載がないという点については、いずれもこの条件を満たしている。

(2) 弦里簡

鷺尾が、長簡で単記式としたものに相当する。これを受けた侯は、戸人と同姓同名の吏民が弦丘の田家前
に見えることを根拠として、長簡・単記式の戸人簡を弦里のものとしており、本稿はこれを支持する。弦里に
いては帳尻簡の集計簡があり（7Ⅱ式一九四三）、それによると、戸数は五十戸である。

① 示意図内の戸人簡で、長簡・単記式。侯が田家前から弦丘の居住者であり、弦里民と考えたもの。¹⁷⁾

74 縣卒謝牛年廿四 — (式一六九八) 二四・三

75 □吏蔡賢年卅六 — (式一七〇六) 二四・三

* 30 郡卒潘囊年廿三 — (式一七〇八) 二四・三

② 示意図内の戸人簡で、長簡・単記式。侯が弦里簡と推定したもの。

76 民男子蔡張年卅四 — (式一六九二) 二四・三

③ 示意図簡の戸人簡だが、残片のためか、侯が採っていないもの。

77 民男子□□年□十九一給□□ — (式一六七八)

下段に記載がないので、広成里簡でないことは明らかであり、消去法でいけば弦里簡の可能性が高いもの
ある。¹⁸⁾

④ 示意图以外の戸人簡で、長簡・単記式。侯が田家前から弦丘の居住者であることを明らかにし、弦里民と考えたもの。一部欠損して、長さが不明なものを含む。

78	州卒耨誌？年卅二	—	(式一五三九)	二四・一
79	州吏潘釘年卅三	—	(式一五五二)	二四・二
80	民男子蔡邠年卅八	—	(式一五六八)	二四・四
81	民男子唐南年卅四腹心病	—	(式一五八二)	二四・六
82	卒潘囊年廿一	—	(式一五九〇)	
83	民男子郭攜年廿二 刑左手絮病一	—	(式一五九三)	二四・四
84	縣吏謝韶年五十一	—	(式一八〇六)	二四・二
85	民男子鄧鼠年卅八	—	(式一八一〇)	二四・一
86	民男子耨專年六十三 踵兩足一	—	(式一八四九)	二四・〇
87	民男子吳遠年卅三 腹心病一	—	(式一八五四)	二三・九
88	縣卒蔡庫年卅三	—	(式一八七七)	二三・九
89	縣卒唐懸年廿三	—	(式一九五〇)	二四・〇
90	子弟蔡囡年六十二	—	(式二〇一五)	二三・九
91	郡吏鄧盆年卅二？	— 已……	(式二〇四七)	二四・一
92	民男子潘司年卅九	—	(式二〇五〇)	二四・二
93	民男郭仕年卅三	—	(式二〇七三)	二四・三
94	子弟耨陳年五十七	—	(式二一〇六)	二四・二

95	民男子王婁年七十八	—	(式二二二) 二四・二
96	民男子胡健年六十一 叛一士限佃	—	(式二二二五) 二四・二
97	民男子逢平年八十八	— <input checked="" type="checkbox"/>	(式二二〇六)
98	縣? 吏潘孳? 年卅九	— <input checked="" type="checkbox"/>	(式二二四二)
99	國大女潘銀年□□	—	(式二二九九) 二四・〇

なお侯は、倉庫蒯（參二五六）から、唐宜の戸人簡（式二六八九）も弦里簡とするが、唐宜については、田家蒯（五・一五八）では平樂丘に居住していたので、本稿では採らない。

広成里の里魁だった蔡喬は職役も負っていたが、弦里の里魁だった郭穢は、「刑左手絮病」とあり、左手の障碍と「絮病」という疾病を罹患していたことがわかる。^⑤やはり過重な負担だったのではないだろうか。

⑤ 示意図以外の戸人簡で、長簡・単記式。侯が書風から弦里簡と推測したもの。

100	民男唐虎年□十四	—	(式一八六四) 二四・〇
-----	----------	---	--------------

長簡・単記式の基準に、第十六盆全体を対象として、弦里簡と考えられる簡を左に列挙する。

⑥ 示意図以外の戸人簡で、長簡・単記式の基準にあてはまるもの。ただし、長さは⑤までの例から、二三・九センチ以上に限る。

101	民男子蔡成年卅六刑右足	—	(式一五七六) 二四・二
102	郡吏烝恪? 年卅三	—	(式一六一六) 二四・二
103	郡吏鄧建年廿三	—	(式一六四四) 二四・一
104	縣吏潘棟年六十四	—	(式一九〇七) 二四・一
105	子弟鄧沐年卅九	—	(式一九一四) 二四・〇

- 106 民男子潘水年卅三 — (式一九五四) 二三・九
- 107 民男子黄汀年六十一 — (式一九八五) 二四・二
- 108 子弟潘澤年卅一 — (式一九九三) 二三・九
- 109 縣吏潘□年卅…… — (式二〇九三) 二三・九
- 110 民慶? 雙年七十 — (式二一五六、函丘) 二三・九
- 111 民男子□□年七十三 — (式二三七八) 二四・〇
- 112 民男子鄧□年十九? □□ — (式二三九〇) 二四・〇
- 113 ……年六十四刑左手 — (式二五三九) 二四・〇
- 114 軍吏張助年卅七 — (式二六七七) 二四・一
- 110の函丘だが、広成郷・函丘の倉庫前は一枚もないので、同姓同名の別人だった可能性が高い。
- ⑦ 示意图以外の戸人簡で、弦丘居住者で單記式ながら、長さが極端に短いもの。
- 115 民男子謝愼年六十一 — 刑兩足 — (式二一一三) 二二・二
- 短簡に分類されるべき長さだが、短簡としても極端に短く、いわば規格外といったところである。しがたつて、弦丘居住者でもあり、弦里簡と考える⁵⁰⁾。

⑧ 弦里簡のまとめ

弦里の戸人簡は推定を含めて、四十三枚を数える⁵¹⁾。広成里簡と同じように、これら以外にも欠損のため長さがわからないものがあるので、弦里に関しても、全五十戸のほぼ全ての戸人簡が残っていると考えられよう。ただし、障害・疾病や職役が戸人に併記される場合は、一字分の空格があるもの以外に、空格を設けずに記入されているものもあり、また空格を設けている83、86、および87の場合は小字である。

(3) 平楽里簡

広成里の場合、『竹簡肆』に四年簿の構成簡が収録されていたわけだが、『竹簡肆』には、他にも平楽里、新成里、漂里、および陽成里などの嘉禾四年吏民簿の構成簡が収録されている。⁽⁵²⁾ いずれの戸人簡も、広成里のものと同じように、紀年と里名が冒頭に明記されており、基本的な様式に違いはない。したがって、平楽里以下の四つの里も、広成里と同じく広成郷管下の里であった可能性が想起されるのだが、このうち平楽里の戸人簡には一枚だけだが、本吏民簿の戸人簡と同姓同名のものがある。また名称から判断して、平楽里民の居住地だったと思われる平楽丘の田家前にも、本吏民簿の戸人簡と同姓同名の吏民が散見される。⁽⁵⁴⁾ そこで、平楽里の項を立て、これらをまとめてみる。

① 示意图以外の戸人簡で、田家前から平楽丘の居住者であることが明らかなもの。⁽⁵⁵⁾ このうち、119の唐宜は、「嘉禾四（二三五）年平楽里吏民簿」（肆五一四五）にも戸人として見えている。⁽⁵⁶⁾

116	子弟謝狗年六十二	—	—	(式一九六八) 二二・九
117	民男子侯倅年廿一刑右手	—	—	(式二二七二) ⁽⁵⁷⁾
118	民男子鄧斗年廿八	—	—	(式二六八〇) 二三・三
119	民男子唐宜年六十四	□	—	(式二六八九)
120	民男子烝連?年八十五	—	□	(式六五九四)
119	の例を俟つまでもなく、第二十一盆の120はともかく、これらが本吏民簿の平楽里部分を構成していたことは間違いないだろう。また形態と様式に関して言えば、短簡・単記式ということになる。長さについては、二三センチ前後というところか。			

② 示意图以外の戸人簡で、①と同じように、短簡・単記式のもの。長さは二三センチ前後を条件とする。

121	□□ <u>系純</u> 年 ^{卅一} □	—	—	(式一九九七) 二三・二
122	民男監?茂年卅五	—	—	(式二〇八五) 二三・二
123	民男子周□年卅五	—	—	(式二一五一) 二三・一
124	民男子陳□年□七	—	—	(式二二六七) 二三・二
125	民男子鄧□年卅三	—	—	(式二二七三) 二三・〇
126	民大女趙□…	—	—	(式二三〇八) 二三・一
127	民男子鄧□年卅五	—	盲左目	(式二三一四) 二三・二
128	軍吏谷幼?年 ^廿 □	—	—	(式二三九七) 二二・九
129	民男子 ^{谷頌} 年卅八	—	—	(式二五四八) 二三・一

該当するのは右の九枚だが、127は疾病・障碍の記入位置が117とは異なっており、疑問が残る。

③ 平楽里簡のまとめ

疾病・障碍の記入位置の不統一など、検討の余地を残しているが、以上の挙例から、本吏民簿の構成簡のうち、短簡・単記式の戸人簡は平楽里のものだったと考えてよいだろう。なお里魁については、次の簡から、嘉禾五(二三六)年時点では谷頌だったことがわかる。³⁸⁾129の谷頌の「公」部分は実見でも釈読できず、あるいは谷頌だった可能性も否定できないが、結論は留保しておきたい。またここでは、戸数が五十三戸となっており、里の帳尻簡(集計・内訳(男女別)・主者)が一枚にまとめられ、集計が里でありながら「集凡」で導かれている点が目される。

130 集凡平楽里五年吏民五十三一戸父母妻子合二百八十三人

其一百卅四人男
其一百卅九人女

魁谷頌主

(4) *a* 里簡

倉庫蒞には、諸税の納入者に関して、本貫である郷と居住地である丘の双方が明記されている。広成郷の倉庫蒞は現在まで六〇〇枚余り確認できるが、そこに見られる丘名に一例だけだが、区丘がある(壹一〇一五〇)。この区丘と類似の名称をもつ区里の戸人簡も二例だけだがある(壹二五九八、貳一三六八)。そして田家蒞にも区丘のものがあり、これと同姓同名の戸人簡が、本吏民簿に二例だけだがある。区丘がその名称から判断して、区里の吏民の居住地だったことは疑いないが、広成郷管下にあったという可能性は高くはない³⁹⁾。したがってこの二例について、ここでは*a* 里の戸人簡として取り扱う。

① 示意图以外の戸人簡で、田家蒞から区丘の居住者のものであることが明らかなもの⁴⁰⁾。*a* 里簡としておく。

- | | | | | | |
|-----|--|---|---------------|---------|------|
| 131 | 民男子盧文年卅六 | 一 | 一文妻大女署年廿三第 | (貳一九〇六) | 二三・三 |
| 132 | 民男子盧客年卅二踵兩足 | 一 | ……? | (貳二三四八) | 二三・四 |
| 132 | は下段の詳細が不明だが、この二枚から、 <i>a</i> 里簡の戸人簡は連記式だったことがわかる。長さは微妙だが、広成里簡よりもわずかに短く、平楽里簡に近いので、ここでは、短簡としておきたい。 | | | | |
| ② | 示意图以外の戸人簡で、①と同じように、短簡・連記式のもの。 | | | | |
| 133 | 民大女郭思年八十三 | 一 | 一思子公乘□年六十一給子弟 | (貳一八一八) | 二三・二 |
| 134 | 民男子張園年卅刑右足 | 一 | 一園妻大女監年卅一第 | (貳一八二五) | 二三・二 |
| 135 | 民男子馮石年六十六聾病 | 一 | 一妻大女營年五十六 | (貳一八八九) | 二三・三 |

136	民大女 <small>唐田</small> 年□六	—	—	一田子女岡?年一歳	(式一九一五) 二三・二
137	縣吏朱蘭年廿六	—	—	一蘭妻大女度年廿一筭一	(式一九一七) 二三・二
138	民男子陳直?年五十九	—	—	一直?妻大女思年卅八筭一	(式一九二二) 二三・三
139	子弟黃樂?年卅八腹心病	—	—	一樂?妻大女暉年廿二筭一	(式一九四五) 二三・二
140	民男子殷盈年 _乙 十一	—	—	一盈妻大女聽?年七十	(式一九六四) 二三・二
141	州卒區汙年卅二	—	—	一汙妻大女婢年五十三	(式二一一〇) 二二・六
142	民男子黃□……	—	—	一……?	(式二二一九) 二三・二
143	……年五十三	—	給□□	一□妻□年 _冊 五	(式二六六七) 二三・二
144	民男子蔡事?年卅三	—	一腹心病	一□妻大女 _全 年卅筭一	(式二六七〇) 二三・四
145	民大女□□年七十五	—	□□	一………	(式二六七九) 二三・四

③ a里簡のまとめ

143では四十五歳の妻に「筭」の記事がないことなど、検討の余地を残しているが、⁽⁶⁾①と合わせて十四枚を抽出することができた。なお五十歳代の女性には「筭」の記載がないので、「筭」の記載原則は、広成里簡とほぼ一致する。疾病や職役が空格を置かずに年齢に直続して記入されている点も広成里簡を彷彿とさせる。なお先に主者簡の13が短簡であることを確認したが、あるいはその母某は、a里の里魁だったのであろうか。

(5) β里簡

侯は、夢丘の田家前に見える吏民に、本吏民簿の戸人と一致する例が見られることを指摘している〔侯二〇一三(侯二〇一五)〕。確かにこれも一例だけだが、広成郷・夢丘の倉庫前がある(壺四六六一)ので、夢丘の

居住者のなかに、広成郷に本貫を繋ぐ吏民もいたのであろう。⁶² 本稿では彼らの本貫をβ里とする。

① 示意图以外の戸人簡で、田家荊などから夢丘の居住者のものであることが明らかなもの。⁶³ β里簡としておく。

146	縣卒呉帛年廿七	—	—	帛妻大女貪年廿三	(式一五五〇) 二四・三
147	民男子區鄧年六十三	—	□? □?	鄧妻大女累年五十	(式一八五五) 二四・〇
148	民男子烝尾年卅九	—	—	妻大女汝年卅	(式二〇五六) 二四・〇
149	民男子謝張年卅八	—	養官牛	妻大女泓年卅八	(式二二八〇) 二四・〇
150	民男子蔡梁年八十三	—	盲右目	梁妻大女姑年五十二	(式二四〇四) 二四・四
151	郡吏區邯年卅八	—	—	邯妻大女平年廿二筭一	(式二四一七) 二三・九
152	民大女黃情年六十四	—	□	—	(式二四二九)

弦里簡に匹敵する長さをもつが、こちらはいずれも連記式である。151を除き、成年女性に算の記載がない点も、弦里簡に同じである。

② 示意图以外の戸人簡で、①と同じような長簡・連記式のもの。⁶⁴

153	民男子呉司年六十	—	—	司妻大女連年卅筭一	(式一八〇四) 二四・三
154	民男子蔡梁年廿五	—	盲左目	母養年六十三	(式一九五六) 二三・九
155	民男子□叙年□□	—	—	叙子熹年七歲物故	(式一九七八) 二四・三
156	民男子蔡指? 年六十四	—	刑左手	妻大女枚年五十五刑左手	(式二〇一一) 二四・一
157	民男子張客年五十二	—	刑右足養官牛	客妻大女愁? 年卅五	(式二四四八、温丘) 二四・一

158 …… □桐年六十 一 刑右手 一 桐妻大女若年卅七 (式二四六七) 二四・三
 ①・②を通じて、疾病・障碍と職役(全て「養官牛」で、雑役と言うべきか)が中段の中段に記入されていることが目につく。このような記載位置はβ簡だけのものなので、欠損のため長さが不明のものも、同類と考えて良いだろう。

③ 示意図以外の戸人簡で、長さが不明ながら、中段中段に疾病・傷害や職役が記入されているもの。

159 民男子蔡典年卅六 一 養官牛 一 典妻大女針年 □ (式一八八七)

160 □蔡岳年六十七 一 刑右手 □ (式二二〇八)

161 □ 一 刑左手 一 □ (式二二二二)

162 民男呉?馮年卅 □ 一 刑左足及?左手 一 馮妻 □年卅二 一 算一 □ (式二四二二、浸丘)

また上段に戸人の姓名がないものの、中段に「養官牛」とあり、下段に家族の記載があるものもある。

④ 完存だが、上段に戸人の姓名が記されていないもの。⁽⁶⁶⁾

163 一 盲右目養官牛 一 狶妻大女思年 卅五 (式二四三七) 二三・九

⑤ β里簡のまとめ

長さは弦里簡と同じ長簡だが、戸人簡は下段も用いた連記式である。特徴は、疾病・障碍と職役(全て「養官牛」を、中段の中段近く書き入れている点で、独特の様式である(147については不詳)⁽⁶⁶⁾。また原則として、女性の口算は不記入だったとすると、これも弦里簡と共通する特徴と言えよう。

なお158の「桐」の上の文字は右部が欠損しているが、左部は「」が釈読できる。おそらくは「區」字の二画目だったのであろう。すなわち主者簡の11(式一八八二)に見える区桐と思われる。彼が夢丘の居住者だっ

たことは、田家荊から明らかであり（五・七七四）、主者簡も長簡なので、問題ないだろう。里魁でありながら障害を持っていたことは、弦里の里魁である郭孺と同じである。

(6) り里簡

以上の他に、第十六盆中には、短簡・三連式の戸人簡がわずかながら確認できる。独特の様式なので、り里簡として、掲げておく。

- 164 民大女唐里年七十三 一里子男徐年十□ 一……年九歳 (式一八九二) 二三・一
- 165 縣卒□盖年□一 一里妻濡年廿五 一里子男狗年二歳 □ (式一九八三)
- 165については、長さが不明だが、とりあえず¹⁶⁴と同じく短簡と考えておきたい。

(7) まとめ

(1) (6)の検討結果をまとめると、以下のようになる。

・基準簡・連記式…広成里（里中丘、彈漫丘など）、里魁は蔡喬（主者簡…式一七〇〇／戸人簡…式一九〇三）。

・長簡・単記式…弦里（弦丘）、里魁は郭孺（主者簡…式二〇六二／戸人簡…式一五九三）。

・短簡・単記式…平樂里（平樂丘）、里魁は谷碩（戸人簡…式二五四八？）。

・短簡・連記式…a里（区丘）、里魁は拇□？（主者簡…式二三四〇）。

・長簡・連記式…β里（夢丘）、里魁は区桐（主者簡…式一八八二／戸人簡…式二四六七）。

・短簡・三連式…り里（不詳）

本項では、長さという形態面と、記載人数という基本的な様式面から、第十六盆には、六種の戸人簡が含まれていることを明らかにした。これは、広成里簡と弦里簡の例があるように、里ごとに形態と様式が異なっていることから、六つの里に対応するということでもある。とすると、広成郷管下の七つの里の本文簡のうち、六つまでが、少なくとも第十六盆に含まれていたということになる。

このうち、広成里簡を基準簡としたのは、これよりも長い簡と短い簡があり、中間値を示しているためであることが諒解されたと思うが、理由はそれにとどまらない。この時代、一尺が二三・五センチ相当であったことが、江西省南昌市の三国墓出土の銅尺から明らかだからである〔文物局（主編）一九八一・図版三二、解説四頁（邱他（編）一九八五・二八頁）〕。おそらくこのような尺を用いて作成されたので、広成里簡に限って、誤差を二ミリの範囲内に収斂させることができたのであろう。それに対して、広成里以外の五つの里では（おそらくは未詳の残る一つの里でも）、これよりも長くするか、逆に短くするかして簡を作成したのであろうが、このように里ごとに明確に形態と様式が異なっていたのは、けっして偶然の結果ではありえない。最低限、事前に関係する里の間で調整が行なわれた結果だったと考えるべきであらう。ただそのような調整は、里の自主的ないしは主体的な判断によって行なわれたと考えるよりも、里を管轄する郷すなわち広成郷のイニシアティブによって行なわれたと考えたほうが無理がない。侯が主張するように〔侯二〇一三（侯二〇一五）〕、里魁以下、里が本吏民簿の作成主体であったにせよ、各里が形態と基本的な様式を独自に選択して作成したというような理解は成立しがたいことである。

そして、このように、里ごとに形態や様式が異なっていれば、戸人簡にあえて里名を明記せずとも、郷でも送達先の県廷でも、当該簡が広成郷管下のいかなる里のものが判断できたのではないだろうか。また里ごとに長さが異なるのであるから、七つの里全ての簡が一つに編綴されていたと考えるのは、単に枚数の問題だけ

ではなく、この点からも無理がある。おそらくは、里ごとに編綴されたものと思われるが、広成里の場合に限っては、冒頭に広成郷の表題簡（1）を広成里の表題簡（2）の前に附して送達され、とくに必要がない限り、県廷でも里ごとに保管されたのでろう。

三 書風からみた戸人簡

侯は、本吏民簿が里ごとに作成されたとした根拠の一つとして、本文簡の書風が、広成里簡と弦里簡で異なること、すなわち書者が別人だったことを上げる〔侯二〇一三（侯二〇一五）〕。具体的には、戸人簡の「民男子」のほか、家族簡の「公乗」・「男弟」などが比較の対象とされているが、書風が異なっているという説明はあるものの、詳細な解説は見られず、この問題は傍証的な位置づけのようである。そこで、本稿では、一項を設けてこの問題について検討を試みる。比較の対象とするのは戸人簡の「民男子」（とくに「男」字）のほか、「吏」・「年」などの文字である。戸人簡だけに比較の対象を限定するのは、同一の書者が戸人簡と家族簡の双方を書写したと断定できないからであり、不要な混乱を回避するためである。この比較作業を通じて、前項でみた六つの里の戸人簡の書風が里ごとに全て異なっていたことが確認できれば、侯の所説の正しさがあらためて証明されようが、それが確認できなかった場合は、新たな解釈が求められることになろう。前項と同じように、里ごとに検討を進めたい。

(1) 広成里簡

まず①と②の計二十六枚のうち、「民男子」が戸人となっている十九枚について、この部分の書風について確

認しておく【図Ⅱ】(No.1～19)。不鮮明な多いが、「男」字が特徴的である。すなわち「田」を中心線にかそれよりやや左側に置き、「力」をその直下ではなく、右斜め下に配する個性的な書風である。その「田」も、第三画を長くして「由」のように画いている。⁽⁶⁷⁾また六枚ある諸吏についても【図Ⅲ】(No.1～6)から、「吏」字の第一画である横画が短く、第五画である縦画が、第一画を突き出ない点に特徴が認められよう。このほか、「民大女」、「子弟」、諸卒、さらには冒頭部分が釈読できないものを中心に、「年」字にも着目したい【図Ⅳ】(No.1～26)。⁽⁶⁸⁾いずれも「上」の下に三本の横画を配したような字形であり、第一画の「ノ」はほとんど見られない。またこれらの文字に注目することにより、示意図中の①と②がいずれも広成里簡であるとした侯の推定に誤りがなかったことも、あらためて確認できよう(以下、広成里簡の書風をタイプ①とする)。

これに③の十五枚を加えて再度検討しよう。まず「民男子」とある七枚である【図Ⅱ】(No.20～26)。不鮮明のものが多く、No.21とNo.25の二枚はタイプ①とは書風を異にしているようである。とくにNo.25(72Ⅱ式一八五二)は横長の扁平な「田」の直下に丸みを帯びた「力」を配しており、明らかに異なっている。加えて「田」左下に「ノ」のような運筆があり、一画多いように見える。⁽⁶⁹⁾諸吏の四枚も不鮮明ながら、明らかにタイプ①と異なるような「吏」の事例は見出せない【図Ⅲ】(No.7～10)。また「年」については、【図Ⅳ】(No.27～41)の十五枚のうち、やはりNo.40(72Ⅱ式一八五二)だけは、タイプ①とは異なり、右脇、最後の横画の上に傍点が確認される。したがって、この72(戸人は区遠)だけは、簡の長さや基本的な様式は広成里簡であるが、書者は明らかに別人だったということがわかる。⁽⁷⁰⁾

(2) 弦里簡

弦里簡の書風についても、まず①～⑤を基礎に考えてみる。最初は「民男子」の「男」字だが、「田」の直下

に「力」を配している点で、広成里簡とは明らかに異筆である【図V】（No. 1～14）。しかしつぶさに観察すると、No. 4（81＝式一五八二）・No. 9（92＝式二〇五〇）・No. 12（96＝式二二二五）のように「力」が丸みを帯びたもの（以下、タイプ②）と、No. 7（86＝式一八四九）・No. 8（87＝式一八五四）・No. 13（97＝式二二〇六）のように「力」が鋭角的なもの（以下、タイプ③）との二つに分けられることがわかる。前者の場合は、「田」が横長の扁平であるという違いもある。しかしいずれも「田」が「由」のように突き出てはいないので、広成里簡とは書者を異にしていたことは確実である。したがって弦里簡については、タイプ①とは別人である複数の書者の手になっていたと判断せざるをえないのである。ただし、「吏」字と「年」字については区別がむづかしく、「吏」字の場合は、等しく第一画の横画が長い点と、第五画の縦画がこの横画を突き出ている点とに、広成里簡との違いを見て取ることができる【図VI】（No. 1～5）。また「年」字も、縦画の右側に傍点「丶」がほとんどすべてに打たれており、広成里簡とは明確に区別される【図VII】（No. 1～28）。

これに、⑥と⑦の十五枚を加えてみる。「民男子」については、やはり不鮮明なものが多いが、タイプ②がほとんどである【図V】（No. 15～21）。また【図VI】（No. 6～10）の「吏」字と、【図VII】（No. 29～43）の「年」字についても、タイプ②・③に含まれるべきものと判断できよう。

もう一点、見逃せないのは、先に指摘しておいた広成里簡の72＝式一八五二の書風は、弦里簡のタイプ②と一致するという事実である。「田」字の「田」から「力」への運筆も同じである。しかし長さと基本的な様式から判断して、これが弦里簡だったと考えることはできない。弦里簡のタイプ②の書者は、弦里の戸人簡を複数枚作成したばかりか、一枚だけだが広成里の戸人簡を作成していたと判断せざるをえないだろう。とすれば、その書者として弦里の里魁だった郭犢を想定するのには無理が生じることになる。少なくとも侯の理解を以てしては、このような事態を説明することは困難である。ここではとりあえず以上のことを確認しておきたい。

(3) 平楽里簡

①は五枚だけだが、「民男子」と「年」字について、書風の特徴を確認しておきたい【図Ⅷ】(No.1~4)・【図Ⅸ】(No.1~5)。広成里簡や弦里簡以上に不鮮明なものが多く、総数も少ないため、特徴を捕捉することは容易ではないが、「民男子」の書風は、弦里簡のタイプ③に近いものがある。「年」字も不鮮明ながら、No.4のように、縦画の右側に「」が打たれているように見えるものがある。あるいは弦里簡と同じ書者の手になったのであろうか。また②についても書風を確認しておく【図Ⅷ】(No.5~10)・【図Ⅸ】(No.6~14)、「民男子」については、No.6(123≡式二一五一)やNo.9(127≡式二三一四)などは明らかにタイプ③に見えるし、「年」字も傍点が打たれている。

これらの諸点から、平楽里簡は広成里簡と書者を異にしていることは疑いないが、その反面、弦里簡とりわけタイプ③と同一の書者の手になった可能性がきわめて高いことがわかる。このことは、本吏民簿とりわけその戸人簡が、里ごとに作成されたのではなく、一人の書者が複数の里の戸人簡をまとめて作成したという可能性が高いことを意味していよう。タイプ③の書者は、弦里簡と平楽里簡双方の作成に中心的に関与したということだろうか。

(4) a里簡

①は二枚だけで【図Ⅹ】(No.1・2)・【図Ⅺ】(No.1・2)、書風の特徴を導き出すことはできない。しかし②に視野を拡大すると【図Ⅹ】(No.3~8)・【図Ⅺ】(No.3~15)、とくに「年」字が広成里簡、すなわちタイプ①と酷似していることがわかる。また「民男子」の「男」字も、No.3(134≡式一八二五)やNo.5(138≡式一九二二)などは、タイプ①に近いように思われる。⁷²⁾とすれば、タイプ①の書者が、広成里簡とa里簡双方の作成に

中心的に関与したということになる。

(5) β 里簡

①について見ておくと【**図XII**】（No. 1～4）・【**図XIII**】（No. 1～7）、「民男子」の「男」字は、わかる範囲ではいずれも弦里簡のタイプ②である。「年」字も弦里簡のそれと特徴を同じくしていることがわかる。これは②についても、ほぼ当てはまる【**図XII**】（No. 5～11）・【**図XIII**】（No. 8～18）。つまりタイプ②の書者が、弦里簡と β 里簡双方の作成に中心的に関与したと考えられるのである。

(6) γ 里簡

γ 里簡についても、書風について「年」字部分を掲げておいたが【**図XIV**】（No. 1・2）、特徴は不明である。

(7) まとめ

以上、本項では、里ごとに戸人簡の書風について検討を進めてきた。あらためてその結果を、成年女性の「筭」のデータの有無とあわせてまとめると、左のようになる。

- ・ 広成里…タイプ①／筭データあり。
- ・ 弦里…タイプ②・③／筭データなし。
- ・ 平楽里…タイプ③／筭データ不明。⁽²³⁾
- ・ α 里…タイプ①／筭データあり。
- ・ β 里…タイプ②／筭データなし。

・ッ 里…タイプ不明／筭データなし。⁷⁴⁾

すなわち、判明している限りでは、書風のタイプと「筭」のデータの有無は見事に対応しているのである。弦里簡に見られるタイプ②とタイプ③がべつの書者であるとすれば、本吏民簿の書者は戸人簡に限ってだが、最少でも三人いたと推定できるが、各里ごとに、例えば里魁のような存在が作成したと考えることはできず、むしろ一人の書者が複数の里の戸人簡の作成に関与していたと考えざるをえないのである。そしてタイプ①の書者による戸人簡・家族簡には成年女性に「筭」のデータが記載されているのに対し、タイプ②・③の書者による戸人簡・家族簡には「筭」のデータが記載されておらず、このデータを記載するか否かは、書者の判断に委ねられていたことを示唆させる。⁷⁵⁾ 以上のように見てくれば、本吏民簿が里ごとに作成されたという理解は成立しがたいように思われる。

しかしこの問題については、結論を急がずに、帳尻簡の復元を俟って再度あらためて検討することにして、戸人簡以外の本文簡である家族簡や戸計簡について、先に検討しておきたい。⁷⁶⁾

(待続)

註

(1) ただし、『竹簡伍』と『竹簡陸』は未刊なので(二〇一五年九月一日現在)、現時点で公刊されているのは『竹簡壹』、『竹簡肆』と『竹簡柒』の計五冊である。

(2) これ以外にも、吏民簿の内容分析から、家族構成の特質を明らかにした町田隆吉や鷺尾祐子の成果がある[町田二〇〇七]「鷺尾二〇一〇B」。

- （３）土砂からの採集については、発掘の現場責任者であった宋少華の記述に詳しい「宋・何一九九七」「宋二〇一三」。
- （４）示意图では上下に巻き込まれているが、上段は二十三層に重ねられているのに対し、下段は十層しかなく、残りの部分は散佚したと考えられる。

- （５）本稿は、平成二十五～二十七年（度）日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究A「新出簡牘資料による漢魏交替期の地域社会と地方行政システムに関する総合的研究」（研究代表者・關尾／課題番号・二五二四四〇三三）による研究成果の一部である。本稿で用いたデータベースは、この科研プロジェクトの他、平成十六～十八年度日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究B「長沙走馬楼出土呉簡に関する比較史料学的研究とそのデータベース化」（研究代表者・關尾／課題番号・一六三二〇〇九六）、平成二十～二十三年（度）日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究A「出土資料群のデータベース化とそれを用いた中国古代史上の基層社会に関する多面的分析」（研究代表者・關尾／課題番号・二〇二四二〇一九）などにより、研究分担者の伊藤敏雄・阿部幸信両氏を中心にして作成されたものである。

なお、本稿に引く本吏民簿をはじめとする長沙呉簡の積文については、既公表のものを写真を参照しながら一部あらためたが、重要なもの以外は註記は省略した。また写真により、編綴痕の位置を確認できたものについては、「一」で示した。このうち一部については、二〇一五年八月二十六日から二十八日にかけて、所蔵先の長沙簡牘博物館において赤外線デジタル顕微鏡を用いて釈読を試みた。本文に「実見」とあるのは、これをさしている。

さらに本稿は、長沙呉簡研究会例会（二〇一五年七月十八日、於桜美林大学四谷キャンパス）における同題の報告を基礎にしている。席上、多くの参加者から貴重な意見を賜ったが、それを十分に反映できなかったこともお断わりしておく。

- （６）本稿における各簡の名称は独自のもので、「安部二〇〇四（安部二〇〇六）」や「侯二〇〇九（侯二〇一五）」などの先行研究とは必ずしも同じではない。

- （７）本吏民簿は、集計簡・内訳簡・主者簡がそれぞれ独立しており、とくに内訳簡は枚数も多く、複雑な構成になっているが、左のように、「嘉禾五（二三六）年平樂里吏民簿」の帳尻簡は、集計（戸数と口数）・内訳（男女別の口数のみ）・主者（里魁の谷頌）が、この順番で一枚の簡に書き込まれている。したがってこの三項がそれぞれ別の簡

に書写される場合も、同じ順番で編綴されたと考えられる。

集凡平樂里五年吏民五十三戸父母妻子合二百八十三人
其一百卅四人男
 其一百卅九人女 魁谷碩主

〔三國呉簡〕二冊二六頁④

(8) 長沙呉簡に見える送り状の文書については、多くの言及があるが、本稿における理解は、その嚆矢とも言うべき高村武幸の成果「高村二〇〇四」によっている。

(9) 侯の試算によると、広成里は戸数五十・口数二九〇＋ a （式一六七一）なので、二三三枚程度の簡を必要としていたはずだから、最終的には散佚してしまった簡が四十枚程度あるという。

(10) 従来、「賦税納入簡」と呼んでいた竹簡群である。「吏民簿」や「吏民田家牋」という名称がそれぞれの表題簡に由来しているのに対し、これに関しては表題簡が出土していない（作成されていない）ために、その機能に着目して命名された。しかしいくつかの籤牌が出土しており、そこに書かれた文言から、「倉庫牋」とあらためることにした。根拠とした籤牌は以下のようなものである。

中倉 所受貧民貸嘉

禾元年租税襍

米蒯

〔三國呉簡〕六冊二七頁③正

中倉 吏黃諱・潘慮起

嘉禾二年八月訖嘉

禾三年五月十五日

〔三國呉簡〕六冊二七頁③背

庫 吏殷連・潘

珣起二年七月

〔柒四八二〇（一）正〕

庫 訖三年五月十五日

所受嘉禾二年

品市布蒯

〔柒四八二〇（一）背〕

庫 所受嘉禾元

年裸皮朔

庫 吏殷連起嘉






禾元年七月訖

三年三月卅日

〔『三国呉簡』六冊二七頁④正〕

〔『三国呉簡』六冊二七頁④背〕

（11）丘が居住地であったことについては、旧稿「關尾二〇〇一B」を参照されたい。

（12）侯は、本吏民簿が、吏と民の双方を対象とした文字通りの「吏民」簿であることを強調し、民籍と吏籍の別を指摘したかつての拙稿「關尾二〇〇六A」を批判するが、軍吏父兄一子弟人名年紀簿 一」（式七〇九二）や、檟郷謹列軍吏父兄人一名年紀爲簿 一」（参三八一四）などの表題簡から、吏とその家族の名籍が作成されたことは疑いのないところである。なお「關尾二〇一五A」も参照。

（13）短い簡を短簡ではなく、あえて基準簡と呼ぶ理由については、本文で後述する。

（14）鷺尾が長短二種の簡があるとした根拠は、連続する式一六六一（二三・六センチ）と一六六二（二四・五センチ）の計測値である。このうち後者の数値は、長簡の平均値と比べても突出したもので、実際には、長簡と基準簡には一センチもの違いは認められない。

（15）原文（『竹簡式』下冊九〇五頁）には、「根拠其保存的現状、觀察到有可能為一較完整的簡冊」とある。なお侯旭東もこの点には注意を向けており、弦丘居住者の簡が、これ以外すなわち式一六六一―一七二三の間に集中していることを指摘している「侯二〇〇九（侯二〇一五）」。

（16）最後については、式二五二九（本文の9）が広成郷の帳尻簡の集計簡であるというのがその根拠のようだが、同じ様式の簡は、戸人簡では二七七一まで確認できる。

（17）侯は、長簡を二四・二―二四・八センチ、短簡（基準簡）を二三・九センチ以下で、多くが二三・五センチ前後としているが「侯二〇二三（侯二〇一五）」、この点については本稿の理解とズレがある。

（18）四例中、田家蒨の「男子」が吏民簿では「子弟」となっているのが三例、「縣吏」となっているのが一例である。

（19）後述するように、式一五四六がこれに相当するという「侯二〇一三（侯二〇一五）」。

- (20) 候は、戸人簡を三十枚とするが「侯二〇一三（侯二〇一五）」、後述するように、式一六七八を見落としているので、正しくは全部で三十一枚である。
- (21) 傍証資料として、成年男子の戸人簡を多く含む「竹簡肆」の二千番台の「嘉禾四年廣成里吏民簿」すなわち四年簿が例示されている。
- (22) 従来戸籍と考えられて来た「竹簡壹」の二万番台の「嘉禾四（二三五）年小武陵鄉吏民簿」（表題簡は、壹一〇一五三）は、候によると、口算を徴収するための基本的な簿籍だったという。なおこの吏民簿については、凌文超による詳細な分析「凌二〇一一（凌二〇一五）」がある。
- (23) 驚尾は早くから示意図簡に限定せず、第十六盆全体を対象として、本吏民簿の構成簡から家族の復元に有益な簡を抽出してきたが、新稿「驚尾二〇一五」では、本吏民簿を「吏民簿2」として、これを家族の復元に積極的に活用している。
- (24) 候自身により、里魁として主者簡（式一八八二）に名が見えている区桐をはじめ、夢丘の居住者と同姓同名の戸人が本吏民簿に散見されることについて、指摘がなされており「侯二〇一三（侯二〇一五）」、その緒口は既に提供されているも同然である。
- (25) 候の旧稿「侯二〇〇九（侯二〇一五）」と同じく、本稿も「復元」（候は「復原」）を表題に掲げているが、本文でも述べたように、本稿は冊書の復元を目的とするものではない。これはほとんど不可能だからである。本稿の「復元」とは、本吏民簿の構成簡を博搜し、とくに戸人簡については里ごとに弁別すること、また帳尻簡の構成を確定すること、をさしている。
- (26) 本稿では書風を、書者ごとの書き癖や巧拙などの特徴を示す概念として用いる。
- (27) 戸人簡に限定して掲げると、五唐里（式二四七四・二四九七）、東扶里（式二五一〇・二七八八）、小赤里（式二七四〇）、曼洩里（式二七五九・二七九三）、および某里（式二六九八）の八枚である。またこのほか、本吏民簿と同じように、里名を記さない、左のような様式の戸人簡が含まれている。

大男朱傷 ☒大男梁闔 ☐ ☐ ☐ ☒

(式二六二九)

(式二六四八)

- (28) 二〇一五年六月五日付けの私信による。
- (29) ただし、長沙簡牘博物館で実際に計測した数値は、図版の計測値とは若干の誤差がある。図版は整理直後の撮影によるのだが、その後の保存過程における事情に由来するものと思われる。また屈折・湾曲している簡も少なからず含まれている。このような簡については、屈折・湾曲している形態に即して計測を行なった。
- (30) 参考までに、三枚の「年」字を図示しておく。【図XV】
- (31) このほか、「・右……」と釈読されている式二四四九について実見したところ、墨痕が下の編綴痕の直上まで及んでおり、本文簡の戸計簡ではなく、集計簡の帳尻簡だった可能性が高いものだが、釈読は不可能だったので、本稿では対象外とする。
- (32) 9の冒頭の文字は釈読できないが、「集」であったことはほぼ確実であろう。なお註(7)に掲げておいたように、里の集計簡にも「集凡」が用いられることがあった。
- (33) 釈文については、侯の釈読「侯二〇一三（侯二〇一五）」を参照した。とくに10については、『竹簡式』では、「羅 蔡喬□」とされているが、侯の釈読に従った。ただし、「魁」は、異体字の「𡗗」である。
- (34) 蔡喬は彈漫丘の田家前（に）名が見えているだけではなく、その戸人簡（式一九〇三）が、形態・様式ともに広成里タイブだからであるが、主者簡（式一七〇〇）が、集計簡（式一六七二）と比較的近接していることも、根拠になる。
- (35) 田家前（五・四四六）では「郭儒」と釈されているが、傍の上部に「𡗗」を認める侯の釈読「侯二〇一三（侯二〇一五）」を支持する。
- (36) 21だけに見える「他坐」だが、柒四二三六（一）や柒四三七九（一）などの君教牘にも見えており、「本貫を離れ、それ以外の地に留まっている」という意味に解釈しておきたい。
- (37) 第十三盆（壹七二七六・八八九〇）や第十四盆（壹八八九一・一〇五四五）などにも、本吏民簿と同じ様式を有する戸人簡が見いだせるが、この両盆には、それ以外にも、「嘉禾四（二三五）年小武陵郷吏民簿」などの構成簡が多数含まれており、本吏民簿の戸人簡を弁別するのは容易ではない。じじつ、No.1の郭思（壹八四七一）については、No.66（式一八一八）の郭思と同名であるばかりか、明らかに同一人と思われる。また両盆に見える吏の戸人簡については、他の吏民簿の構成簡との弁別ができないため、対象外としている。なお第十四盆中の吏民簿構成

簡については、凌文超の成果「凌二〇一一（凌二〇一五）」を参照されたい。

- (38) 田家蒨の検索は、『吏民田家蒨』の「附録二 嘉禾吏民田家蒨地名索引」と「附録三 嘉禾吏民田家蒨人名索引」に依拠して行なった。

- (39) 本稿では、倉庫蒨は補助的に用いる。なぜならば、倉庫蒨は嘉禾元（二三二）年や同二（二三三）年のものが中心を占めており、本吏民簿とは年代的に微妙なズレがあるからである。ただ田家蒨には郷を記していないので、その丘がいかなる郷の居住地なのかがわからないという難点がある。しかし倉庫蒨には、納税者の居住する丘とともに、本貫の郷名が併記されているので、丘と郷の対応関係が把握できる。倉庫蒨から広成郷と関わりがあると認められる丘について、その丘の田家蒨に見えている吏民と、本吏民簿の戸人が同姓同名である場合、当該の戸人が本貫とする里まではわからないまでも、里に対応する丘すなわち居住地までは解明できたことになる。

- (40) 註（20）を参照。

- (41) 里中丘（早中丘を含む）の田家蒨と本吏民簿の同姓同名例を表示する。【表Ⅱ】

なお、広成郷・里中丘の倉庫蒨は五枚ほど確認できる（巷七七九六、式五三三二、五四六一、六〇九八、参二二五四）。

- (42) 本吏民簿と同姓同名の四年簿の戸人簡を一括して示しておく。

嘉禾四年廣成里戸人公乘朱萇一年十六刑左足給亭雜人	—	(肆二〇四二／式一七七三)
□年廣成里戸人公乘周車年五十二腹心病給關父	—	(肆一九二四／式一六八六)
嘉禾四年廣成里戸人公乘黃張一年五十二踵佐足	—	(肆二六八四／式一七二四)
□成里戸人公乘周從一年廿三給亭復人	—	(肆二六三三／式一五四〇)
嘉禾四年廣成里戸人公乘周明年一卅五盲左目	—	(肆二〇一六／式一八一二)

- (43) 『竹簡式』では、戸人を「□文」とするが、侯の釈読「侯二〇〇九・八六頁註①」に従った。

- (44) 広成郷・逢唐丘の倉庫蒨は五枚ほど確認されるが（巷六九二七、八二〇三、式五四六七、八九六二、参二一五）、梨下丘と函丘については、広成郷の倉庫蒨は一枚もなく、この両丘に関しては、広成郷民が居住していたことを証明できない。

(45) 彈漫丘の田家前と本吏民簿の同姓同名例を表示する。【表Ⅲ】

なお、広成郷・彈漫丘（彈漫丘、單漫丘を含む）の倉庫別は三十四枚に達する（壹二八〇四、三八七三、三九一七、三九五七、六〇〇八、六九七九、七三〇九、七八三三、七九四八、七九四九、八一〇五、八三六八、九八八一、貳五三二二、五四五九、五九二九、參三三〇、二八〇、二七六六、二八四二、三二一〇、三六〇七、三六七二、三六七五、三六七七、三六八七、三六九七、三七〇一、三七〇七、三七六二、三七八六、五九九二、七七〇九、柒一五七六）。この数は、広成郷の倉庫前で最大なので、彈漫丘の居住者はほぼ全員が広成郷民だったと考えられるが、一方で、この丘に対応すると思われる彈漫里なる里の戸人簡も少数だがある（貳三七、三四一四）。

(46) 66の丘名については、本文で言及した50と同じように、実見の結果を踏まえた。

(47) 弦丘の田家前と本吏民簿の同姓同名例を表示する。【表Ⅳ】

なお、広成郷・弦丘（孫丘、雅丘を含む）。この点については、「胡二〇〇六」を参照）の倉庫別は七枚に上る（壹二八一、六八一四、六八二六、七五五五、貳三八〇、四五七、參二五六）。

(48) 示意図簡は広成里簡が弦里簡のいずれかであるという先行研究の理解が前提にあることは言うまでもない。

(49) 「絮病」なる疾病は他に記載例がなく、最近、吏民簿の疾病・障碍のデータを整理した福原啓郎も「未詳」とする【福原二〇一五】。

(50) これについては、戸計簡があり（貳二〇〇九）、基準簡と長簡の中間値を示していることも考慮した。ただし、上段に大きな空白がありながら、疾病・障碍に関するデータが、中段に書き込まれているなど、他の簡との相違点が目立っていることは確かである。

(51) 第十六盆には、このほかにも、二三・八センチの単記簡が九枚ほど含まれている。弦丘居住の吏民の戸人簡で最短が二三・九センチなので（87・88・90）、慎重を期して本稿では保留した。貳一八二三、一八三七、一九八七、二〇六八、二二七〇、二三五八、二三七六、二四二〇、および二四五九の九枚で、第二十盆の貳六三四五を含めると計十枚になる。

(52) 註（42）を参照。

(53) それぞれの簡番号を掲げておく。

平楽里…肆一九七二、一九七三、一九七四、二四九三、二四九五、二七二〇、二七三二、五一四五、五一六六、五一七八（紀年一部欠）。

新成里…肆一九六三、一九六四（新成里のべつの吏民簿の帳尻簡に、柒四〇一六がある）。

漂里…肆二四七九、二四八一。

陽成里…肆一九六五（里名釈読不能）。

(54) 広成郷・平楽丘の倉庫蒞は六枚になる（壹二七五〇、六三一七、參二七九二、三七〇八、五九六五、柒一五九四）。

(55) 平楽丘の田家蒞と本吏民簿の同姓同名例を表示する。【表V】

(56) 釈文を掲げておく。

嘉禾四年平楽里戸人唐宜一年□十三

— □

（肆五一四五／貳二六八九）

(57) 釈文は、「侯惺」とするが、図版からは読み取れない。一方、平楽丘の田家蒞には「侯堆」なる吏民が確認できるが（五・一五六）、これも図版からは読み取れない。ただいずれも旁が複数の縦画と横画から構成されており、相似した字形を有している。あるいは「侯渾」と釈すべきか。

(58) 本文に掲げたのとはべつの表題簡がある。

平楽里□（魁）□謹列……

□

（壹九〇〇五）

附された【註】によれば、「谷」の下文字は、「頁」を旁にしているということなので、「碩」と判断して誤らないであろう。

(59) 広成郷・区丘の倉庫蒞が一枚とあまりに少ないので、区丘の居住者としては広成郷民は少数派だったのではないだろうか。郷・里と丘は必ずしも一対一で対応しているわけではなく、異なった郷・里を本貫とする吏民が同じ丘に居住していることもあった。このことを明らかにしたのは、他ならぬ侯旭東である「侯二〇〇四（侯二〇〇五）」。

区丘が区里に対応することは疑いないが、その区里は広成郷以外の某郷の管下にあったと考えられよう。桑郷・区丘の倉庫蒞が九例確認できるので、おそらく区里は桑郷管下の里だったのであろう。

(60) 区丘の田家蒞と本吏民簿の同姓同名例を表示する。【表VI】

(61) あるいは五十歳代だけではなく、四十歳代の女性にも「筭」を記載しない原則だったのかもしれないが、確証はな

い。

(62) ただし、夢丘なる丘名が見える倉庫蒯はこの一枚だけで、広成郷以外の倉庫蒯には全く見えない。

(63) 夢丘の田家蒯と本吏民簿の同姓同名例を表示する。【表Ⅶ】

(64) 以下には、温丘と浸丘の田家蒯との同姓同名例が一例ずつあるが、広成郷・温丘の倉庫蒯は一枚だけで（卷三二五六）、広成郷・浸丘の倉庫蒯は一枚もない。ともに田家蒯は同姓同名の別人だった可能性が高い。

(65) 163については、左のような関連連簡がある。

□……………一敘子公乘猪年六十踵左足 一猪妻大女緣年五十（式三三八）

一猪中妻大女彌年卅五筭一 一猪小妻大女瑣 年卅筭一……（式二四〇五）二四・一

このうち前者は、上段にも墨痕が認められるので、後述するγ里簡の可能性が高いものである。また後者は長さ
と内容のデータが適合するが、女性に「筭」が記載されているのが難点である。もしその点を考慮しないのであれ
ば、163は戸人である某猪のデータを書き損なったということであろうか。

(66) 「養官牛」など職役（雑役）はβ里簡だけに記入された特殊な負担と考えることができそうだが、式二四九八だけ
は、左に掲げたように、β里簡とは異なり、単記式で長さも二三・五センチと基準簡に等しい。また釈文も、疾
病・障碍に直続して、職役を導く「給」字を置くが、その意味を捕捉することはできない。

□□爰勤年六十八苦腹心病給一養官牛（式二四九八）

実見したところ、「苦」字以下は全く釈読できなかった。最後の「牛」字は、子篇が確認されたが、隣の部分は
汚れが付着しており釈読はのぞめなかったが、「牛」字でないことは明らかで、対象外としておきたい。

(67) 長沙呉簡研究会例会における町田隆吉氏の教示による。なお「民」字の第四画である横画の止めも特徴的だが、こ
れはつぎの弦里簡にも共通しているように思えるので、ここでは捨象したい。

(68) 広成里の戸人簡は連記式なので、下段の家族の記載中にも「年」字があるが、上段の戸人の部分と下段の家族の部
分が同一の書者の手になったのか否か、確証がないため、上段の記載が不鮮明であっても、下段の「年」字を採る
ことはしない。

(69) 長沙呉簡研究会例会における窪添慶文氏の教示による。なお「田」の中央の縦画から連続しているようにも見え

る。

(70) 【図Ⅱ】のNa 21すなわち65Ⅱ式一六二七については、「年」字【図Ⅲ】Na 33）が不鮮明なため、判断が困難であり、保留したい。

(71) 正確に表現すれば、「𠂔」の下に「史」を配する字形である。

(72) もっとも、【図X】Na 4（135Ⅱ式一八八九）の「男」字はタイプ②の書風に酷似する。

(73) 平楽里簡は単記式なので、「筭」の記載については家族簡に手がかりを求めざるをえないのだが、残年ながら平楽里の家族簡と断定できるものはない。

(74) γ里簡については、本文に掲げた戸人簡（165）のほか、三連式の家族簡（式一六三五）のデータも参照した。

(75) ただし、これは戸人簡と家族簡が同じ書者の筆になること、連記式の戸人簡の場合は上段の戸人と下段の家族も同じ書者の筆になること、この二点が前提である。

(76) 本節での検討結果をふまえ、示意図簡に含まれる六十九枚に上る無文字簡についても、新たな説明が求められることになろうし、また広成里や平楽里と同じように、『竹簡肆』にその嘉禾四年吏民簿の構成簡が収録されている新成里、漂里、および陽成里などと広成郷との関係についても、別途検討の必要が生じるであろう。

図版・釈文

『吏民田家劄』…長沙市文物考古研究所・中国文物研究所・北京大学歴史学系走馬楼簡牘整理組（編）『長沙走馬楼三国呉簡吏民田家劄』全二冊、文物出版社、一九九九年。

『竹簡壹』…長沙市文物考古研究所・中国文物研究所・北京大学歴史学系走馬楼簡牘整理組（編）『長沙走馬楼三国呉簡竹簡』『壹』全三冊、文物出版社、二〇〇三年。

『竹簡貳』…長沙簡牘博物館・中国文物研究所・北京大学歴史学系走馬楼簡牘整理組（編）『長沙走馬楼三国呉簡竹簡』『貳』全三冊、文物出版社、二〇〇七年。

『竹簡参』…長沙簡牘博物館・中国文物研究所・北京大学歴史学系走馬楼簡牘整理組（編）『長沙走馬楼三国呉簡竹簡』

〔参〕全三冊、文物出版社、二〇〇八年。

『竹簡肆』…長沙簡牘博物館・中國文化遺產研究院・北京大學歷史學系走馬樓簡牘整理組（編）『長沙走馬樓三國呉簡竹簡』〔肆〕全三冊、文物出版社、二〇一一年。

『竹簡柒』…長沙簡牘博物館・中國文化遺產研究院・北京大學歷史學系・故宮博物院古文獻研究所走馬樓簡牘整理組（編）『長沙走馬樓三國呉簡竹簡』〔柒〕全三冊、文物出版社、二〇一三年。

『三國呉簡』…宋少華（主編）『湖南長沙三國呉簡』全六冊、重慶出版社・中國簡牘書法係列、二〇一〇年。

参考文献

〔日文（五十音順）〕

安部聡一郎

二〇〇四 「長沙呉簡にみえる名籍簡の初歩的検討」、『長沙呉簡研究報告』第二集。

石原遼平

二〇一〇 「長沙呉簡名籍考―書式と出土状況を中心に―」、『中國出土史料研究』第一四号。

邱 隆・丘光明・顧琳森・劉東瑞・巫 鴻（邱他）

一九八五（編）／山田慶児・浅原達郎（訳）『中國古代度量衡図集』、みすず書房。

小林洋介

二〇〇五 「正倉院籍帳と長沙走馬樓三國呉簡」、『史観』第一五三冊。

關尾史郎

二〇〇一 A 「吏民田家別の性格と機能に関する一試論」、長沙呉簡研究会（編）『嘉禾吏民田家別研究―長沙呉簡研究報告・第一集』、長沙呉簡研究会。

二〇〇一 B 「長沙呉簡所見「丘」をめぐる諸問題」、長沙呉簡研究会（編）『嘉禾吏民田家別研究』（前出）。

二〇〇二 A 「長沙出土年次未詳吏民田家別に関する一試論」、『中國世界における地域社会と地域文化に関する研究』

第一輯。

二〇〇二 B 「サンクトペテルブルグ蔵、Jx02683 + Jx11074 初探—トゥルファン盆地の水利に関する一史料—」、『中国水利史研究』第三〇号。

二〇〇六 A 「長沙呉簡中の名籍について—史料群としての長沙呉簡・試論（二）—」、『唐代史研究』第九号。

二〇〇六 B 「長沙呉簡中の名籍について・補論—内訳簡の問題を中心として—」、『人文科学研究』第二一九輯。

二〇一五 A 「簿籍の作成と管理からみた臨湘侯国—名籍類を中心として—」、『伊藤敏雄・窪添慶文・關尾（編）『湖南出土簡牘とその社会』、汲古書院。

二〇一五 B 「魏晋簡牘のすがた—長沙呉簡を例として—」、『歴史民俗博物館研究報告』第一九四集。

高村武幸

二〇〇四 「長沙走馬樓呉簡にみえる郷」、『長沙呉簡研究報告』第二集。

谷口建速

二〇一〇 「従長沙走馬樓呉簡看三国呉的給役与賦税」、『第四届中国中古史青年学者国際研討会論文集』、台湾大學。

二〇一五 「長沙呉簡にみえる佃客と限米」、伊藤・窪添・關尾（編）『湖南出土簡牘とその社会』（前出）。

町田隆吉

二〇〇七 「長沙呉簡よりみた「戸」について—三国呉の家族構成に関する初步的考察—」、『長沙呉簡研究報告』第三集。

鷺尾祐子

二〇一〇 A 「長沙走馬樓呉簡連記式名籍簡の検討—家族の記録について—」、『中国古代史論叢編集委員会（編）『中国古代史論叢』第七集、立命館東洋史学会・立命館大学東洋史学会叢書十。

二〇一〇 B 「走馬樓呉簡から見える家族の状況について—夫婦間の年齢差などから—」、『長沙呉簡研究報告』二〇〇九年度特刊。

二〇一二 「走馬樓呉簡吏民簿と郷の状況—家族研究のための予備的検討—」、『立命館東洋史学』第三五号。

二〇一五 「分異の時期と家族構成の変化について——長沙呉簡による検討——」、伊藤・窪添・關尾（編）『湖南出土簡牘とその社会』（前出）。

「中文（拼音順）」

安部聡一郎

二〇〇六 「試論走馬樓呉簡所見名籍之体式」、長沙簡牘博物館・北京呉簡研討班（編）『呉簡研究』第二輯、崇文

書局・崇文學術文庫。

国家文物局（文物局）

一九八一（主編）『中国古代度量衡图表』、文物出版社。

侯旭東

二〇〇四 「長沙走馬樓三国呉簡所見“鄉”与“鄉吏”」、北京呉簡研討班（編）『呉簡研究』第一輯、崇文書局・

崇文學術文庫。

二〇〇五 「北朝村民的生活世界——朝廷・州郡与村里」、商務印書館・中国中古社会和政治研究叢書。

二〇〇九 「長沙走馬樓呉簡《竹簡》「弋」吏民人名年紀口食簿」復原的初步研究」、《中華文史論叢》二〇〇九年第一期。

二〇一三 「長沙走馬樓呉簡「嘉禾六年（広成郷）弦里吏民人名年紀口食簿」集成研究——三世紀初江南郷里管理

一瞥」、邢義田・劉增貴（主編）『第四届国际汉学会議論文集 古代庶民社会』、中央研究院歷史語言研究所。

二〇一五 『近観中古史——侯旭東自選集』、中西書局・六零學人文集。

胡平生

二〇〇六 「《長沙走馬樓呉簡》第二卷《竹簡「宅」》地名・人名釈文校証」、中国社会科学院簡帛研究中心・中国社会科学院歷史研究所秦漢南北朝研究室（編）『簡帛研究』二〇〇四、广西師範大学出版社。

鷺尾祐子

二〇一一

「長沙走馬樓吳簡連記式名籍簡的探討——關於家族的記錄」、長沙簡牘博物館·北京大學中國古代史研究中心·北京吳簡研討班(編)『吳簡研究』第三輯、中華書局。

凌文超

二〇一一

「走馬樓吳簡採集簡“戶籍簿”復原整理與研究——兼論吳簡“戶籍簿”類型與效能」、長沙簡牘博物館·北京大學中國古代史研究中心·北京吳簡研討班(編)『吳簡研究』第三輯(前出)。

二〇一三

「走馬樓吳簡簿書復原整理趨議」、彭衛(主編)『歷史學評論』第一卷、社會科學文獻出版社。

二〇一五

『走馬樓吳簡採集簿書整理與研究』、廣西師範大學出版社·簡帛研究文庫。

宋少華

二〇一一

「長沙三國吳簡的現場揭取與室內揭剝——兼談吳簡的盆號和揭剝圖」、長沙簡牘博物館·北京大學中國古代史研究中心·北京吳簡研討班(編)『吳簡研究』第三輯(前出)。

二〇一三

「長沙走馬樓三國吳簡的發現與研究」、長沙市文物局(編)『長沙重大考古發現』、岳麓書社。

宋少華·何旭紅

(宋·何)

一九九七

「嘉禾一井伝千古——長沙走馬樓三國孫吳紀年簡牘發掘散記」、『文物天地』一九九七年第四期。

王素·宋少華·羅新(王他)

一九九九

「長沙走馬樓簡牘整理的新收穫」、『文物』一九九九年第五期。

【表 1 『竹簡 貳』示意図の戸人簡、およびそれと同じ様式を有する戸人簡一覧】

No.	簡番号	里 名	丘 名	戸 人 簡	釈 文(口は補綴箇所)	様 式	長5cm	ウ/7	戸 計 簡	長5cm	備考(同一簡他)
1	沓8471				民大郭思年八十二	単	24.2				沓1818(No.66)
2	沓8905				民男ノ口年口十一	単	23.5				
3	沓8933		里中丘		民大李婢年七十一	単	—				5-284
4	沓8943				民男ノ意殷年口七	単	—				
5	沓8953		□丘ノ 桑勤丘 ノ桑勤 丘		民男ノ劉剛年五十一	単	—				5-1085ノ参3632(232年)ノ参3690(232年)
6	沓8992				民男ノ口奇年七十九	—	—				
7	沓9043				民男ノ李口年口十一	單?	—				
8	沓9747				民男ノ唐季年口口	—	—				第一
9	沓1539		弦 丘		州宮術記?年口二	單	24.1	B	右諸家口食十口(1560)	24.3	5-443
10	沓1540	広茂里			口男周從年廿三	連	23.5	A			第二633
11	沓1542				口口口口頭?年口五	連	23.5	A			
12	沓1550		夢 丘		縣宮昌年廿七	連	24.3	β			5-761
13	沓1552		弦 丘		州吏潘初年口三	單	24.2	B	右新冢口食十一人(1650)	24.2	5-466
14	沓1568		弦 丘		民男ノ蔡張年口八	單	24.4	B	右新冢口食七人(1566)	24	5-456
15	沓1576				民男ノ蔡成年口六	單	24.2	B			
16	沓1578		弦 丘		口更五和?年口五	連	23.6	A			
17	沓1582		弦 丘		民男ノ唐南年口四	單	24.6	A	右南冢口食二人(1959)	23.9	5-447
18	沓1590		弦 丘		×宮清養年口二	單	—	B	右南冢口食六人(1836)	23.9	5-470
19	沓1593		弦 丘		民男ノ郭福年口二	連	24.4	B	右南冢口食四人(1809)	24.1	5-446(郭福, 誤による)
20	沓1610				……年口二	連	23.6	A			
21	沓1612				口更口年口八	連	23.6	A			
22	沓1616				都吏張初?年口三	單	24.2	B			
23	沓1623		彈漫丘		都吏張七年口三	連	23.6	A	右士冢口食六人(1661)	23.5	5-942
24	沓1627				民男ノ胡惠?年口七	連	23.5	A			
25	沓1633		里中丘		州吏尹禧年口五	連	23.5	A			5-278
26	沓1641				都父長利年口三	—	—				
27	沓1644				都吏郭建年口三	單	24.1	B	右建冢口食三人(1637)	24.1	
28	沓1659		□ 丘		民男ノ黃豐年口五	連	23.7	A			5-1058
29	沓1673				民男ノ黃收?年口十一	連	23.5	A			
30	沓1675				州吏馬巴年口九	連	23.6	A			
31	沓1678				民男ノ口口年口十九	單	—	B			
32	沓1686	広茂里	□ 丘ノ 泓口丘		民男ノ周車年口五十三	連	23.7	A	右車冢口食九人(1734)	23.8	第二1924ノ5-1027ノ沓7336(233年)
33	沓1692	弦 丘?			民男ノ蔡張年口四	單	24.3	B	右張冢口食七人(1791)	24.2	5-1071(誤による)

34	武1698	弦丘	縣吏謝生年廿四	——	連	24.3	B	右牛家口食七人(1653)	24.1	5-474	
35	武1703	里中丘	父縣吏周昭年六十	——	連	——	A			5-288	
36	武1706	弦丘	郡吏蔡生年卅六	——	連	24.3	B			5-460, 侯仁上	
37	武1707	民男	子季兒年卅一	——	連	23.6	A	右呂家口食三人(1709)	23.8		
38	武1708	弦丘	郡縣年卅三	——	連	24.3	B	右義家口食八人(1697)	24.2	5-471	
39	武1710	梁下丘	民男	子劉臣年卅六	——	連	23.6	A	右宜家口食三人(1712)	23.8	5-669
40	武1714	州吏	呂次生年卅七	——	連	23.6	A				
41	武1720	郡吏	黃嘉年卅五	——	連	23.7	A				
42	武1723	里中丘	軍吏朱謙年卅五	——	連	23.5	A			5-283	
43	武1724	彈道丘	民男	子高生年五十三	——	連	23.6	A	右張家口食七人(1791)	24.2	詳2684/5-943
44	武1729	里中丘	縣吏劉精年廿七	——	連	23.7	A			5-290(邵壽)	
45	武1741	民男	子公卿年七十四	——	連	23.6	A				
46	武1755	民男	子公卿年七十三	——	連	23.6	A	右漢家口食六人(1753)	23.7		
47	武1762	里中丘 ／廣成丘	民男	子謝生年七十四	——	連	23.5	A		5-280/ 營786(233年)	
48	武1764	里中丘	民男	子范宣年卅二	——	連	23.5	A		5-285	
49	武1768	里中丘	民男	子朱賢年六十一	——	連	23.5	A	右賈家口食四人(1770)	23.6	5-282
50	武1771	民男	子屈歲年六十二	——	連	23.5	A	右縣家口食七人(1788)	23.8		
51	武1772	商丘	民男	子唐金年八十二	——	連	23.5	A	右金家口食三人(1767)	23.6	5-479
52	武1773	廣成里	民男	子朱長年六十七	——	連	23.5	A		詳2042/5-281	
53	武1775	里中丘	民男	子胡?交年六十四	——	連	23.6	A	右文家口食四人(1820)	23.5	5-287, 侯仁上
54	武1778	民男	子楊明年八十六	——	連	23.6	A	右明家口食五人(1790)	23.8		
55	武1781	彈道丘 ／彈道丘	民男	子蔡君年卅七	——	連	23.5	A		5-946/ 武5487(-)	
56	武1782		民男	子周口年卅三	——	連	23.7	A			
57	武1785		民男	子周托年卅二	——	連	23.7	A			
58	武1786	蓬蘭丘	民男	子堪公年六十一	——	連	23.6	A		5-587	
59	武1795	民男	子楊亮年六十	——	連	23.7	A	右亮家口食九人(1800)	24		
60	武1801	彈道丘 ／彈道丘 ／彈道丘	民男	子與鼠年卅四	——	連	23.6	A		5-944/ 營783(233年)/ 武385(234年)	
61	武1804	民男	子皇司年六十	——	連	24.3	B				
62	武1806	縣吏	劉嗣年五十一	——	連	24.2	B	右劉家口食八人(2250)	——	5-476	
63	武1810	弦丘	民男	子劉鼠年卅八	——	連	24.1	B		5-463	
64	武1811	廣成里 口 丘	民男	子周明?年卅四	——	連	23.5	A		詳2016/5-1029	
65	武1815	弦丘	子弟與譯年卅	——	連	23.6	A			5-455	

66	貳1818			民女郭思年八十三	思子公乘口年六十一給子弟	連	23.2	α				
67	貳1822			州各祭國年卅二	區妻大女口年廿七葬	連	23.6	A				
68	貳1823			民男子羅政年卅八	羅嗣足	連	23.8					
69	貳1825			民男子羅慶年卅捌右足	妻妻大女監年卅一第一	連	23.2	α				
70	貳1837			民男子謝想年卅四		連	23.8					
71	貳1849	弦丘／ 平樂丘		民男子柳專年六十三	顧嗣足	單	24	B		右專家口食七人(21876)	24.2	5・441(梅華)／ 參4994(232年、梅華)
72	貳1852			民男子區達年七十三	達妻大女布年六十	連	23.7	A				
73	貳1854	弦丘／ 錢丘		民男子吳達年卅三	腹心痛	單	23.9	B				5・439／ 參6814(-)／ 貳5324(233年)
74	貳1855	夢丘		民男子區鄧年六十三	口?口?	連	24	β				
75	貳1864	弦丘?		民男唐年口十四	鄧妻大女累年五十	連	24	B		右唐家口食十七人(20446)	24.4	5・776 候に上る
76	貳1866			民男子潘采年五十六	潘足口口×	連	—					
77	貳1877	弦丘		縣令蔡咸年卅三	善官生	連	23.9	B		右陳家口食十五人(2199)	—	5・458
78	貳1887			民男子穆典年卅六	典妻大女劉年×	連	—	β				
79	貳1889			民男子潘石年六十六	潘病	連	23.2	α				
80	貳1892			民女唐清年七十三	車子男徐年十口	三	23.1	γ				
81	貳1898			民潘杞年六十六	附耳	單	—					
82	貳1899			州吏口政年卅二	×	單	—					
83	貳1903	弦豐丘		民男子蔡節年六十二	結驛兵	連	23.4	A				5・947(蔡驛、候に上る)
84	貳1906	區丘		民男子羅文年卅六	文妻大女習年廿三第一	連	23.3					5・626
85	貳1907			縣吏潘轉年六十	轉妻大女周年卅三	連	24.1	B				
86	貳1911			民男子蔡道年五十九	道妻大女周年卅三	連	—					
87	貳1914			子弟鄭永年卅九		連	24	B				
88	貳1915			民女唐田年口六	田子女周年一歲	連	23.2	α				
89	貳1917	口姑丘		縣吏朱蘭年廿六	蘭妻大女周年廿一第一	連	23.2	α				5・1012
90	貳1917			民男子陳君年五十九	君妻大女周年廿一第一	連	23.3	α				
91	貳1922			子弟黃樂年卅八	樂心痛	連	23.2	α				
92	貳1945	弦丘		縣令唐德年廿三		連	24	B				5・449
93	貳1951			民男子鄭口年卅六	潘足	單	23.5					
94	貳1954			民男子潘水年卅三		單	23.9	B				
95	貳1956			民男子蔡來年廿五	官左妻官生	連	23.9	β				
96	貳1964			民男子殷監年七十一	監妻大女體年七十	連	23.2	α				
97	貳1968	平樂丘 ／ 平樂丘		子弟謝純年六十二		單	22.9	C				5・181／ 參2799(232年)
98	貳1978			民男子口叙年口一	叙子嘉年七歲幼政	連	24.3	β				
99	貳1983			縣令口蓋年口一	蓋妻潘年廿五	連	—	γ				

100	武1985		民男子黃汀年六十一	——	單	24.2	B	右汀家口食四人(1875)	24.2	
101	武1987		民男子潘起年五十二……	——	單	23.7				
102	武1993		子弟潘年卅一	——	單	23.9	B			
103	武1997	虎丘/ 橫丘	□□桑純年廿一□	——	單	23.2	C			武5419(233年)/參 3863(232年)
104	武2011		民男子蔡指年六十四	——	連	24.1	B			
105	武2015	弦丘	子弟蔡年六十二	——	單	23.9	B			
106	武2018		民大女□□年卅一	——	單	——				
107	武2026		民大女□□年廿四	——	連	——				
108	武2027		郎夏島年十八	——	連	——				
109	武2047	弦丘	×□郎夏鄧益年卅二?	——	單	24.1	B			5-462
110	武2050	弦丘/ 平陽丘	×□郎夏司年卅九	——	單	24.2	B	右司家口食六人(2541年)	24.5	5-464/參3438(2332年)
111	武2056	夢丘	民男子燕尾年卅九	——	連	24	β			5-771
112	武2064		民男子孫養年六十二	——	單	23.5				
113	武2068		縣吏謝□年五十□	——	——	23.8				
114	武2070		……年六十二	——	——	23.6				
115	武2073	弦丘	民男子郭仕年卅三	——	單	24.3	B	右仕家口食五人(2014)	23.9	5-445(郭仕,侯仁上公)
116	武2085		民男監?度年卅五	——	單	23.2	C			
117	武2093		縣吏潘□年卅……	——	單	23.9	B			
118	武2106	弦丘	子弟梅顯年五十七	——	單	24.2	B	右顯家口食三人(1651)	24	5-442
119	武2110	□丘	州外國汗年卅二	——	連	22.6	α			5-1061(佩江)
120	武2113	弦丘	民男子謝懷年六十一	——	單	22.2	B?	右懷家口食三人(2009)	23.7	5-475
121	武2119		縣外國象年十八	——	連	24.5	B			5-1063
122	武2121	弦丘	民男子王妻年七十八	——	單	24.2	B			5-436
123	武2125	弦丘	民男子胡健年六十一	——	單	24.2	B	右健家口食四人(1827)	23.9	5-440(侯仁上公)
124	武2134		民男子……	——	——	——				
125	武2151		民男子周□年卅……	——	單	23.1	C			
126	武2152		縣吏顧嘉年十九	——	單	23.6				
127	武2156	關丘	民陳?慶年七十一	——	單	23.9	B			5-485
128	武2161		縣吏潘冠年卅一	——	——	——				
129	武2172	平桑丘	民男子倪得年廿一	——	——	——	C			5-156(侯雅)
130	武2206	弦丘	民男子逢平年八十八	——	——	——	B			5-444
131	武2208		×蔡岳年六十七	——	——	——	β			
132	武2212		×□刑左手	——	連	23.2	α			
133	武2219		民男子黃□……	——	——	——	β			
134	武2242	弦丘	縣?吏潘野年卅九	——	——	——	B	右野?家口食十人(1685)	24.5	5-473(侯仁上公)
135	武2267		民男子陳□年□七	——	單	23.2	C			
136	武2270		民大女……	——	單	23.8				

137	貳2273			民男子鄧□年卅三	×		連	—				
138	貳2280	夢丘		民男子謝遷年卅八	養官牛	妻大女溫年卅八	連	24	β			5-789
139	貳2289	弦丘		民大女潘銀年□□			單	24	B	右鄰家口食五×(2433)		5-407
140	貳2300	星中丘		民男子鄧希年廿六	×		單	—				肆5352(—, 鄧希)
141	貳2308			民大女趙□……			單	23.1	C			
142	貳2314			民男子鄧□年卅五	盲左目		單	23.2	C			
143	貳2348	區丘		民男子盧客年卅二	兩兩足	……?	連	23.4	α			5-627
144	貳2352			×□年卅官兩目			單	—				
145	貳2357			縣吏□□年卅……	……?	……?	—	23.7				
146	貳2358			州□□屬年□十五			單	23.8				
147	貳2371			□東胡□年卅七	×		單	—				
148	貳2376			民男子鄧□年六十一	兩兩足		單	23.8				
149	貳2378			民男子□□年七十三			單	24	B			
150	貳2390			民男子鄧□年十九	□□		單	24	B			
151	貳2397			漢東谷幼?年卅一			單	22.9	C			
152	貳2404	夢丘		民男子蔡梁年八十三	盲右目	梁妻大女姑年五十二	連	24.4	β	右鄰家口食二人(2402)	24.2	5-785
153	貳2409			×……年七十六	腹心病	□妻大女蘭?年五十一	連	23.8				
154	貳2417	夢丘		郡吏區□年卅八	□妻大女平年廿二	第一	連	23.9	β	右鄰家口食十四人(2506)	—	5-773
155	貳2420			師吏□□各益年卅二			單	23.8				
156	貳2422	漫丘		民男子?馮年卅□	刑左足及?左手	妻妻□年卅二	連	—	β			5-588
157	貳2429	夢丘		民大女黃情年六十四	×		—	—	β			5-778
158	貳2437			盲右自養官牛	妻妻大女思年卅五		單?	23.9	β			
159	貳2444			民男子雷進年六十八	×		連	—				
160	貳2448	溫丘		民男子張客年五十二	刑右足	養官牛	連	24.1	β			5-728
161	貳2456			×□□□□年卅			單	—				
162	貳2459			民男子□□選年卅七	刑左手		單	23.8				
163	貳2460			郡吏公乘李□年卅二	第一	×	單	—				
164	貳2466			□東□□年□五		×	連	24.3	β			
165	貳2467			×……楊年六十	刑右手	妻妻大女若年卅七	連	24.3	β			
166	貳2471			民男子□□□七十五	頭右足		單	23.6				
167	貳2478			縣吏劉留年卅四		×	—	—				
168	貳2486			縣吏鄧□年六十	頭□□		×	23.8				
169	貳2487			×丞年卅九	第一		×	—				
170	貳2498			□□蔡勤年六十八	苦腰心病	給養官牛	單	23.5				
171	貳2539			……年六十四	刑左手		單	24	B			
172	貳2548			民男子谷頌年卅八			單	23.1	C			
173	貳2553			×……第一	兩兩足	×	—	—				
174	貳2558			民男子吳賓年八十二	□□□	妻大女……×	連	—				

175	武2566	三州丘 ／ 柳丘 ／ 柳丘	民男子泰開7年五十二間右足 ×	—	—				巻4786(一)／巻 6190(一)／巻7546(533 年)／武3916(232?年)
176	武2581		民男子□□年□□ ×	—	—				
177	武2615		縣々縣總年卅五 ×	—	—				
178	武2635		民男子泰開年七十五 ×	—	—				
179	武2649		民男子荀夷年×	—	—				
180	武2667		……年五十三 給□□ □夷□年卅五	連	23.2				α
181	武2670		民男子泰開7年卅三 腹心病 □夷大女至年卅第一	連	23.4				α
182	武2677		軍吏強助年卅七	連	24.1				B
183	武2679		民大女□□年七十五□□ ……	連	23.4				α
184	武2680	平樂丘	民男子鄧斗年廿八	連	23.3				C
185	武2689	平樂丘 ／ 平樂里丘 ／ 茲	民男子唐宣年六十四×	—	—	C			牌5145／5・158／參 256(232年)
186	武2749		民男子公乘×	—	—				
187	武2753		郡七□□年五十一 ×	—	—				
188	武2771	於丘	民男子黃孝×	—	—				5・425
189	武2796		×大女愚年×	—	—				
190	武2811		□男子愚×	—	—				
191	武6345		民男子唐□年七……	連	23.8				
192	武6594	平樂丘	民男子泰開7年八十五 ×	連	—	C			
193	武7772		民男子□□年五十一…… ×	連	—				5・163
194	牌3056		民男子許實年×	—	—				

里名：明開は院里東のデータ、ゴチツカは開院のデータ。

丘名：斜体字は倉庫前、明朝はゴチツカの使いつけは里名と同じ。

タテマ：Aは成里前、Bは強里前、Cは平樂里前、α・β・γはそれぞれの里に対応。
備考：田家前や倉庫前(斜体字)の番号を示す。

●長沙具簡吏民簿の研究（上）

【表Ⅱ 里中丘田家前との同姓同名例】

No.	簡番号	戸人姓名（身分）	様式	長さ	田家前	納入者姓名（身分）	備 考（他の吏民簿・倉庫前など）
1	式8933	李 婢（民大女）	単	—	5・284	李 婢（大女）	
2	式1703	唐 晔（県吏）	連	—	5・288	唐 晔（県吏）	
3	式1723	朱 謙（軍吏）	連	23.5	5・283	朱 謙（軍吏）	
4	式1729	鄧 橘（県吏）	連	23.7	5・290	鄧 橘（県吏）	
5	式1764	范 宜（民男子）	連	23.5	5・285	范 宜（男子）	
6	式1768	朱 賢（民男子）	連	23.5	5・282	朱 賢（男子）	
7	式1773	朱 畏（民男子）	連	23.5	5・281	朱 畏（男子）	広成里（肆2042）
8	式1775	胡? 文（民男子）	連	23.6	5・287	胡 文（男子）	「胡」は〔侯2009（侯2015）〕による
9	式1633	尹 澤（州吏）	連	23.5	5・278	尹 澤（男子）	早中丘
10	式1762	謝 文（民男子）	連	23.5	5・280	謝 文（男子）	同 上

*様式、長さなどが不明な場合は、全て「—」で示す（以下、同じ）。

【表Ⅲ 彈漫丘田家前との同姓同名例】

No.	簡番号	戸人姓名（身分）	様式	長さ	田家前	納入者姓名（身分）	備 考（他の吏民簿・倉庫前など）
1	式1623	黄 土（郡吏）	連	23.6	5・942	黄 土（郡吏）	
2	式1724	黄 張（民男子）	連	23.6	5・943	黄 張（男子）	広成里（肆2684）
3	式1781	蔡 若（民男子）	連	23.5	5・946	蔡 若（男子）	彈漫丘（式5487）
4	式1801	黄 鼠（民男子）	連	23.6	5・944	黄 鼠（男子）	彈漫丘（式7833）
5	式1903	蔡 喬（民男子）	連	23.4	5・947	蔡 橋（男子）	里魁（式1700）

【表Ⅳ 弦丘田家前との同姓同名例】

No.	簡番号	戸人姓名（身分）	様式	長さ	田家前	納入者姓名（身分）	備 考（他の吏民簿・倉庫前など）
1	式1539	梅 誌?（州卒）	単	24.1	5・443	梅 誌（州卒）	
2	式1552	潘 釘（州吏）	単	24.2	5・466	潘 釘（州吏）	
3	式1568	蔡 邠（民男子）	単	24.4	5・456	蔡 邠（男子）	
4	式1582	唐 南（民男子）	単	24.6	5・447	唐 南（男子）	
5	式1590	潘 囊（口卒）	単	—	5・470	潘 囊（県卒）	
6	式1593	郭 孺（民男子）	単	24.4	5・446	郭 孺（—）	「孺」は〔侯2013（侯2015）〕による ／里魁（式2062）
7	式1698	謝 牛（県卒）	単	24.3	5・474	謝 牛（県卒）	
8	式1706	蔡 賢（口吏）	単	24.3	5・460	蔡 賢（郡吏）	
9	式1708	潘 囊（郡卒）	単	24.3	5・471	潘 囊（郡卒）	
10	式1806	謝 韶（県吏）	単	24.2	5・476	謝 韶（県吏）	
11	式1810	鄧 鼠（民男子）	単	24.1	5・463	鄧 鼠（男子）	
12	式1815	黄 澤（子弟）	連	23.6	5・455	黄 澤（男子）	⇒長さ・連記式から、広成里簡と判断。
13	式1849	梅 專（民男子）	単	24	5・441	梅 專（男子）	平楽丘（参4998）
14	式1854	呉 遠（民男子）	単	23.9	5・439	呉 遠（男子）	弦丘（式6814、式5324）
15	式1877	蔡 庫（県卒）	単	23.9	5・458	蔡 庫（県卒）	
16	式1950	唐 懸（県卒）	単	24	5・449	唐 懸（県卒）	
17	式2015	蔡 困（子弟）	単	23.9	5・457	蔡 困（男子）	
18	式2047	鄧 盆（郡吏）	単	24.1	5・462	鄧 盆（郡吏）	
19	式2050	潘 司（民男子）	単	24.2	5・464	潘 司（男子）	平陽丘（式3433）
20	式2073	郭 仕（民男）	単	24.3	5・445	郭 士（男子）	〔侯2013（侯2015）〕による
21	式2106	梅 蔭（子弟）	単	24.2	5・442	梅 蔭（男子）	
22	式2113	謝 愼（民男子）	単	22.2	5・475	謝 愼（男子）	
23	式2121	王 婁（民男子）	単	24.2	5・436	王 婁（男子）	
24	式2125	胡 健（民男子）	単	24.2	5・440	胡 健（男子）	
25	式2206	逢 平（民男子）	—	—	5・444	逢 平（男子）	
26	式2242	潘 玗?（県?吏）	—	—	5・473	潘 玗（県吏）	〔侯2013（侯2015）〕による
27	式2299	潘 銀（民大女）	単	24	5・467	潘 銀（大女）	

【表Ⅴ 平楽丘田家前との同姓同名例】

No.	簡番号	戸人姓名(身分)	様式	長さ	田家前	納入者姓名(身分)	備考(他の吏民簿・倉庫前など)
1	式1968	謝 狗(子弟)	単	22.9	5・181	謝 狗(男子)	平楽丘(参2792)
2	式2172	侯 渾?(民男子)	単	—	5・156	侯 渾?(男子)	
3	式2680	鄧 斗(民男子)	単	23.3	5・175	鄧 斗(男子)	
4	式2689	唐 宜(民男子)	単	—	5・158	唐 宜(男子)	平楽里(肆5145)／弦丘(参256)
5	式6594	烝 連?(民男子)	一	—	5・163	烝 連(男子)	
6	式2548	谷 頌?(民男子)	単	23.1	5・148	谷 頌(男子)	里魁(嘉禾5年簡)

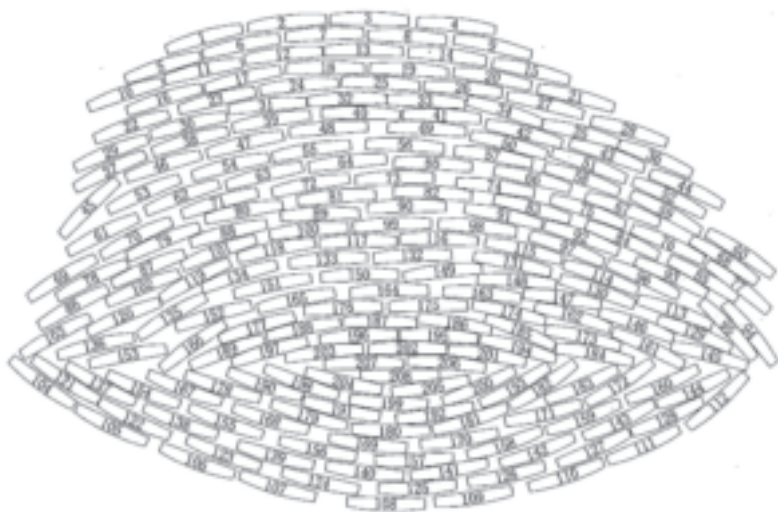
【表Ⅵ 区丘田家前との同姓同名例】

No.	簡番号	戸人姓名(身分)	様式	長さ	田家前	納入者姓名(身分)	備考(他の吏民簿・倉庫前など)
1	式1906	廬 文(民男子)	連	23.3	5・626	廬 文(男子)	
2	式2348	廬 客(民男子)	連	23.4	5・627	廬 客(男子)	

【表Ⅶ 夢丘田家前との同姓同名例】

No.	簡番号	戸人姓名(身分)	様式	長さ	田家前	納入者姓名(身分)	備考(他の吏民簿・倉庫前など)
1	式1550	吳 帛(県卒)	連	24.3	5・761	吳 帛(県卒)	泊丘(肆3684)
2	式1855	區 鄧(民男子)	連	24	5・776	區 鄧(男子)	
3	式2056	烝 尾(民男子)	連	24	5・771	烝 尾(男子)	
4	式2280	謝 張(民男子)	連	24	5・789	謝 張(男子)	
5	式2404	蔡 梁(民男子)	連	24.4	5・785	蔡 梁(男子)	
6	式2417	區 邯(郡吏)	連	23.9	5・773	區 邯(郡吏)	
7	式2429	黄 情(民大女)	一	—	5・778	黄 情(大女)	
8	式2467	□ 桐(一)	連	24.3	5・774	區 桐(男子)	里魁(式1882)

【図Ⅰ『竹簡 式』示意图（式 1661～式 1799）】（出典：『竹簡 式』下冊 905 頁）



簡番号	図番号	簡番号	図番号	簡番号	図番号	簡番号	図番号	簡番号	図番号	簡番号	図番号
1661	3	1685	39	1708	70	1731	102	1754	145	1777	177
1662	4	1686	42	1709	71	1732	103	1755	146	1778	179
1663	5	1687	43	1710	72	1733	108	1756	147	1779	180
1664	6	1688	44	1711	73	1734	107	1757	148	1780	181
1665	7	1689	45	1712	74	1735	110	1758	149	1781	182
1666	8	1690	46	1713	75	1736	111	1759	152	1782	183
1667	9	1691	47	1714	78	1737	112	1760	153	1783	184
1668	12	1692	48	1715	84	1738	113	1761	154	1784	187
1669	13	1693	52	1716	85	1739	114	1762	155	1785	188
1670	14	1694	55	1717	87	1740	115	1763	156	1786	189
1671	15	1695	56	1718	88	1741	118	1764	157	1787	190
1672	16	1696	57	1719	89	1742	119	1765	159	1788	191
1673	17	1697	58	1720	90	1743	120	1766	161	1789	192
1674	19	1698	59	1721	91	1744	123	1767	162	1790	193
1675	20	1699	60	1722	92	1745	124	1768	163	1791	196
1676	21	1700	62	1723	93	1746	125	1769	164	1792	197
1677	22	1701	62	1724	95	1747	126	1770	165	1793	202
1678	24	1702	63	1725	96	1748	132	1771	166	1794	203
1679	28	1703	64	1726	97	1749	133	1772	167	1795	204
1680	32	1704	66	1727	98	1750	134	1773	170	1796	205
1681	33	1705	67	1728	99	1751	135	1774	171	1797	206
1682	34	1706	68	1729	100	1752	139	1775	173	1798	207
1683	35	1707	69	1730	101	1753	144	1776	174	1799	208
1684	38										

*簡番号は『竹簡 式』の番号を、また図番号は示意图の番号を示す。対応する簡番号のないもの（例えば、図番号の1や2）は、無文字簡である。

【図Ⅱ 広成里簡の「民男子」】

No.	1(①38)	2(①27)	3(①39)	4(①40)	5(②41)	6(②43)	7(②23)	8(②44)
簡番号	式1764	式1768	式1773	式1775	式1673	式1686	式1707	式1710
戸人	范 宜	朱 賢	朱 萇	胡? 文	蔡 收?	周 車	李 兒	劉 宜
丘 名	里中丘	里中丘	里中丘	里中丘	—	—	—	—
写 真								
No.	9(②47)	10(②49)	11(②50)	12(②51)	13(②52)	14(②53)	15(②54)	16(②55)
簡番号	式1724	式1755	式1762	式1771	式1772	式1778	式1781	式1782
戸人	黄 張	□ 漢	謝 文	屈 驍	唐 金	楊 明	蔡 若	周 □
丘 名	彈漫丘	—	里中丘	—	—	—	彈漫丘	—
写 真								
No.	17(②56)	18(②57)	19(②58)	20(③59)	21(③65)	22(③67)	23(③68)	24(③69)
簡番号	式1785	式1786	式1795	式1540	式1627	式1659	式1801	式1811
戸人	周 托	張 卒	楊 禿	周 從	胡 應?	黄 ■	黄 鼠	周 明?
丘 名	—	—	—	(広成里)	—	—	彈漫丘	—
写 真								
No.	25(③72)	26(③73)						
簡番号	式1852	式1903						
戸人	區 遠	蔡 喬						
丘 名	—	彈漫丘						
写 真								











* No.欄のカッコ内の丸付数字は本文の分類を、数字は本文の史料番号をそれぞれ示す。

また丘名は主要なものに限る(以下、同じ)。






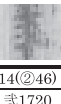













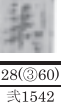



















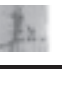
** 出典:『竹簡 式』上冊・中冊(以下、同じ)。

●長沙呉簡吏民簿の研究（上）

【図Ⅲ 広成里簡の諸「吏」】






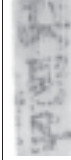















No.	1(①35)	2(①36)	3(①37)	4(②42)	5(②45)	6(②46)	7(③61)	8(③63)
簡番号	式1703	式1723	式1729	式1675	式1714	式1720	式1578	式1612
戸人	唐 旺	朱 謙	郭 橘	惠 巴	呂 次	黃 薦	五 桓?	□ □
丘名	里中丘	里中丘	里中丘	—	—	—	—	—
写 真								
No.	9(③64)	10(③66)						
簡番号	式1623	式1633						
戸人	黃 士	尹 澤						
丘名	彈漫丘	里中丘						
写 真								

【図Ⅳ 広成里簡の「年」】

No.	1(①35)	2(①36)	3(①37)	4(①38)	5(①27)	6(①39)	7(①40)	8(②41)
簡番号	式1703	式1723	式1729	式1764	式1768	式1773	式1775	式1673
戸人	唐 旺	朱 謙	郭 橘	范 宜	朱 賢	朱 棖	胡? 文	蔡 收?
丘名	里中丘	里中丘	里中丘	里中丘	里中丘	里中丘	里中丘	—
写 真								
No.	9(②42)	10(②43)	11(②23)	12(②44)	13(②45)	14(②46)	15(②47)	16(②48)
簡番号	式1675	式1686	式1707	式1710	式1714	式1720	式1724	式1741
戸人	惠 巴	周 車	李 兒	劉 宜	呂 次	—	黃 張	唐 扇
丘名	—	—	—	—	—	—	彈漫丘	—
写 真								
No.	17(②49)	18(②50)	19(②51)	20(②52)	21(②53)	22(②54)	23(②55)	24(②56)
簡番号	式1755	式1762	式1771	式1772	式1778	式1781	式1782	式1785
戸人	□ 漢	謝 文	屈 騎	唐 金	楊 明	蔡 若	周 □	周 托
丘名	—	里中丘	—	—	—	彈漫丘	—	—
写 真								
No.	25(②57)	26(②58)	27(③59)	28(③60)	29(③61)	30(③62)	31(③63)	32(③64)
簡番号	式1786	式1795	式1540	式1542	式1578	式1610	式1612	式1623
戸人	張 卒	楊 禿	周 從	□ 頭?	五 桓?	□ □	□ □	黃 士
丘名	—	—	(広成里)	—	—	—	—	彈漫丘
写 真								
No.	33(③65)	34(③66)	35(③67)	36(③68)	37(③69)	38(③70)	39(③71)	40(③72)
簡番号	式1627	式1633	式1659	式1801	式1811	式1815	式1822	式1852
戸人	胡 惠?	尹 澤	黃 儼	黃 鼠	周 明?	黃 澤	蔡 區	區 遠
丘名	—	里中丘	—	彈漫丘	—	弦 丘	—	—
写 真								


No.	41(③73)
簡番号	式1903
戸人	蔡 喬
丘名	難漫丘
写 真	


【図Ⅴ 弦里簡の「民男子」】

No.	1(②76)	2(③77)	3(④80)	4(④81)	5(④83)	6(④85)	7(④86)	8(④87)
簡番号	式1692	式1678	式1568	式1582	式1593	式1810	式1849	式1854
戸人	蔡 張	□ □	蔡 邠	唐 南	郭 彌	郭 鼠	梅 專	吳 遠
丘名	弦 丘	弦 丘?	弦 丘	弦 丘	弦 丘	弦 丘	弦 丘	弦 丘
写 真								
No.	9(④92)	10(④93)	11(④95)	12(④96)	13(④97)	14(⑤100)	15(⑥101)	16(⑥107)
簡番号	式2050	式2073	式2121	式2125	式2206	式1864	式1576	式1954
戸人	潘 司	郭 仕	王 婁	胡 健	逢 平	唐 虎	蔡 成	潘 水
丘名	弦 丘	弦 丘	弦 丘	弦 丘	弦 丘	弦 丘	—	—
写 真								
No.	17(⑥107)	18(⑥110)	19(⑥111)	20(⑥112)	21(⑦115)			
簡番号	式1985	式2156	式2378	式2390	式2113			
戸人	黃 汀	慶? 雙	□ □	郭 □	謝 慎			
丘名	—	—	—	—	弦 丘			
写 真								





●長沙具簡吏民簿の研究（上）




【図VI 弦里簡の諸「吏」】

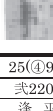
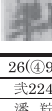
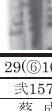

No.	1(①75)	2(④79)	3(④84)	4(④91)	5(④98)	6(⑥102)	7(⑥103)	8(⑥104)
簡番号	1706	1552	1806	2047	2242	1616	1644	1907
戸人	蔡賢	潘釘	謝韶	鄧盆	潘玗?	烝恪?	鄧建	潘棟
丘名	弦丘	弦丘	弦丘	弦丘	弦丘	—	—	—
写真								




No.	9(⑥109)	10(⑥114)
簡番号	2093	2677
戸人	潘□	張賜
丘名	—	—
写真		









【図VII 弦里簡の「年」】




No.	1(①74)	2(①75)	3(①30)	4(②76)	5(③77)	6(④78)	7(④79)	8(④80)
簡番号	式1698	式1706	式1708	式1692	式1678	式1539	式1552	式1568
戸人	謝牛	蔡賢	潘囊	蔡張	□□	梅誌?	潘釘	蔡郊
丘名	弦丘	弦丘	弦丘	弦丘?	—	弦丘	弦丘	弦丘
写真								

No.	9(④81)	10(④82)	11(④83)	12(④84)	13(④85)	14(④86)	15(④87)	16(④88)
簡番号	式1582	式1590	式1593	式1806	式1810	式1849	式1854	式1877
戸人	唐南	潘囊	郭孺	謝韶	鄧鼠	梅專	吳遠	蔡庫
丘名	弦丘	弦丘	弦丘	弦丘	弦丘	弦丘	弦丘	弦丘
写真								









No.	17(④89)	18(④90)	19(④91)	20(④92)	21(④93)	22(④94)	23(④95)	24(④96)
簡番号	式1950	式2015	式2047	式2050	式2073	式2106	式2121	式2125
戸人	唐懸	蔡困	鄧盆	潘司	郭仕	梅薩	王婁	胡健
丘名	弦丘	弦丘	弦丘	弦丘	弦丘	弦丘	弦丘	弦丘
写真								



No.	25(④97)	26(④98)	27(④99)	28(⑤100)	29(⑥101)	30(⑥102)	31(⑥103)	32(⑥104)
簡番号	式2206	式2242	式2299	式1864	式1576	式1616	式1644	式1907
戸人	逢平	潘玗?	潘銀	唐南	蔡成	烝恪?	鄧建	潘棟
丘名	弦丘	弦丘	弦丘	—	—	—	—	—
写真								

No.	33(㊦105)	34(㊦106)	35(㊦107)	36(㊦108)	37(㊦109)	38(110)	39(㊦111)	40(㊦112)
簡番号	式1914	式1954	式1985	式1993	式2093	式2156	式2378	式2390
戸人	鄧 沐	潘 水	黄 汀	潘 澤	潘 □	慶? 雙	□ □	鄧 □
丘 名	—	—	—	—	—	—	—	—
写 真								









No.	41(㊦113)	42(㊦114)	43(㊦115)
簡番号	式2539	式2677	式2113
戸 人	□ □	張	謝 慎
丘 名	—	—	弦 丘
写 真			






【図Ⅷ 平楽里簡の「民男子」】

No.	1(㉑117)	2(㉑118)	3(㉑119)	4(㉑120)	5(㉑122)	6(㉑123)	7(㉑124)	8(㉑125)
簡番号	式2172	式2680	式2689	式6594	式2085	式2151	式2267	式2273
戸人	侯 倅	鄧 斗	唐 宜	燕 連?	監 茂?	周 □	陳 □	鄧 □
丘 名	平楽丘	平楽丘	平楽丘	平楽丘	—	—	—	—
写 真								

No.	9(㉑127)	10(㉑129)
簡番号	式2314	式2548
戸 人	鄧 □	谷 頌
丘 名	—	—
写 真		

【図Ⅸ 平楽里簡の「年」】

No.	1(㉑116)	2(㉑117)	3(㉑118)	4(㉑119)	5(㉑120)	6(㉑121)	7(㉑122)	8(㉑123)
簡番号	式1968	式2172	式2680	式2689	式6594	式1997	式2085	式2151
戸人	謝 狗	侯 倅	鄧 斗	唐 宜	燕 連?	燕 純	監 茂?	周 口
丘 名	平楽丘	平楽丘	平楽丘	平楽丘	平楽丘	—	—	—
写 真								

No.	9(㉑124)	10(㉑125)	11(㉑126)	12(㉑127)	13(㉑128)	14(㉑129)
簡番号	式2267	式2273	式2308	式2314	式2397	式2548
戸人	陳 口	鄧 口	趙 口	鄧 口	谷 幼?	谷 頌
丘 名	—	—	—	—	—	—
写 真			—			

◎長沙呉簡吏民簿の研究（上）

【図X a里簡の「民男子」】

No.	1(①131)	2(①132)	3(②134)	4(②135)	5(②138)	6(②140)	7(②142)	8(②144)
簡番号	式1906	式2348	式1825	式1889	式1922	式1964	式2219	式2670
戸人	盧文	盧客	張夔	馮石	陳其?	殷盈	黃□	蔡聿?
丘名	區丘	區丘	—	—	—	—	—	—
写真								

【図XI a里簡の「年」】

No.	1(①131)	2(①132)	3(②133)	4(②134)	5(②135)	6(②136)	7(②137)	8(②138)
簡番号	式1906	式2348	式1818	式1825	式1889	式1915	式1917	式1922
戸人	盧文	盧客	郭思	張夔	馮石	唐田	朱蘭	陳其?
丘名	區丘	區丘	—	—	—	—	—	—
写真								

















No.	9(②139)	10(②140)	11(②141)	12(②142)	13(②143)	14(②144)	15(②145)
簡番号	式1945	式1964	式2110	式2219	式2667	式2670	式2679
戸人	黃樂?	殷盈	區汗	黃□	□□	蔡聿?	□□
丘名	—	—	—	—	—	—	—
写真							

【図XII b里簡の「民男子」】

No.	1(①147)	2(①148)	3(①149)	4(①150)	5(②153)	6(②154)	7(②155)	8(②156)
簡番号	式1855	式2056	式2280	式2404	式1804	式1956	式1978	式2011
戸人	區鄧	燕尾	謝張	蔡梁	吳司	蔡棠	□叙	蔡指?
丘名	夢丘	夢丘	夢丘	夢丘	—	—	—	—
写真								

No.	9(②157)	10(③159)	11(③162)
簡番号	式2448	式1887	式2422
戸人	張客	蔡典	吳? 馮
丘名	—	—	—
写真			

【図XIII 8里簡の「年」】

No.	1(①146)	2(①147)	3(①148)	4(①149)	5(①150)	6(①151)	7(①152)	8(②153)
簡番号	式1550	式1855	式2056	式2280	式2404	式2417	式2429	式1804
戸人	吳 帛	區 鄧	蒸 尾	謝 張	蔡 梁	區 邯	黃 情	吳 司
丘 名	夢 丘	夢 丘	夢 丘	夢 丘	夢 丘	夢 丘	夢 丘	—
写 真								
No.	9(②154)	10(②155)	11(②156)	12(②157)	13(②158)	14(③159)	15(③160)	16(③161)
簡番号	式1956	式1978	式2011	式2448	式2467	式1887	式2208	式2212
戸人	蔡 棠	□ 叙	蔡 指?	張 客	□ 桐	蔡 典	蔡 品	□ □
丘 名	—	—	—	溫 丘	—	—	—	—
写 真								—
No.	17(③162)	18(④163)						
簡番号	式2422	式2437						
戸人	吳? 馮	□ 鍾?						
丘 名	—	—						
写 真		—						

【図XIV γ里簡の「年」】

No.	1(164)	2(165)
簡番号	式1892	式1983
戸人	唐 聿	□ 蓋
丘名	—	—
写 真		

【図XV 表題簡の「年」】

No.	1(広成里)	2(広成郷)	3(弦 里)
簡番号	式1797	式1798	式1546
写 真			